

SOAI

相愛ファミリア

相愛大学 www.soai.ac.jp
〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1
相愛高等学校・相愛中学校 www.soai.ed.jp
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23

2012
No. 22

familiar

亡き恋人に背中を押されて

インタビュー・社会で活躍する卒業生
豊島克典さん

葬祭ディレクター
相愛大学人文学部卒業生





ご遺族の心に寄り添える 葬祭ディレクターを目指す

社会で活躍する卒業生

豊島克典 さん

葬祭ディレクター
相愛大学人文学部
人間心理学科 平成24年3月卒業

豊島克典さんは今春、相愛大学人文学部を卒業し、現在は大阪府和泉市の総合葬儀会館「和泉中央メモリアルホール」で葬祭ディレクターとして活躍しています。葬祭ディレクターは大切な人を失って悲しみにくれる遺族の方々に寄り添い、通夜や葬儀を円滑にすすめる仕事です。豊島さんは社会人1年生として、式場の設営や参列者の案内など一つひとつの業務に懸命に取り組む、多忙な日々をおくっています。

やりがいある仕事に懸命に取り組む

葬祭ディレクターの仕事は、亡くなられた方を病院や自宅へ迎えにいくところから始まり、通夜や葬儀についての遺族との打ち合わせや必要な品の発注など多岐にわたります。通夜や葬儀の一切を取り仕切りますが、宗派によってそれぞれ儀礼が異なるため、専門的な知識が欠かせません。

豊島さんは現在、先輩社員のアシスタントとして式典のセッティングや参列者の案内などの業務を行っています。「よく、失敗して仕事を覚えるといいますが、私たちの仕事は人生に一度しかない『死』にたずさわる仕事です。お客さまにご迷惑をおかけするような失敗は決して許されません」と話し、学生時代とは責任の重さが



違うことを実感する日々だとか。先輩からも常に「気配り」や「段取り」の大切さを教えられます。常に緊張感が求められる仕事ですが、「やりがい仕事なので苦になりません」と喜々として働いています。

恋人の死を乗り越え、 葬祭ディレクターを志す

豊島さんが葬祭ディレクターを志したきっかけは、大学で同級生だった恋人の死でした。彼女とは大学入学後にサークル活動を通して知り合い、付き合うようになりました。しかし、大学2回生の時、突然、病気で亡くなってしまいました。そんな絶望の淵にいた豊島さんを支えてくれたのは、一人の葬祭ディレクターでした。

「葬儀を担当してくださった葬祭ディレクターの方が、彼女の家族でもない僕にも声をかけてくださり、本当に細かい心配りをしてくださいました」と当時を振り返ります。「自暴自棄にならず、彼女の分まで生きるのだという気持ちになれたのも、その方のおかげです」と話し、その経験が葬祭ディレクターの道を選ぶことにつながりました。

そして大学時代は人間心理学科で色彩心理学を学ぶかたわら、軽音楽部や学生会執行部会、大学祭実行委員会などで幅広く活躍し



ました。大学の友人たちとは社会人になってからも付き合いは続いており、大学で学んだ色彩心理学は、祭壇の花の色合いを考えることなどに役立っているといいます。

亡き恋人に背中を押されて

社会人1年目の今、「とにかく一生懸命に」を心がけて仕事に取り組んでいます。目下の目標は、一つの葬儀を責任者としてまかされるようになることです。

「僕も経験しましたが、大切な人を亡くした時は心身ともにまいってしまいます。そんなご遺族の方々の道しるべとなるのが、葬祭ディレクター。だから葬儀では、私たちがご遺族の方々以上に「しんどい思い」をしなければなりません」

一人前の葬祭ディレクターとなるため、「しんどい」仕事中心の日々はしばらく続きそうです。

豊島さんは「まだ新入社員なので(力不足の自分が)歯がゆいのですが」と前置きしながら「ご遺族の方々とはわずかに二、三日のかかわりですが、落ち込んでマイナスになっている心をゼロ、そしてプラスにできるような仕事をしたい」と将来への決意を語ってくれました。

そして、はにかむような笑顔で、「彼女が背中を押してくれていますから」と。

(取材協力・和泉中央メモリアルホール)



古典籍を復元して読み解く 現代に通じる「人間の感情」

鈴木徳男 教授 (人文学部 日本文化学科)

——研究レポート第1弾ということで、先生が研究されております分野、または最近のテーマについてお聞かせ下さい。

大きな分野としては、いわゆる国文学です。私がこの相愛に就職した時には、短期大学に国文学科がありました。当時は女子教育の基本的な教養として国文学が重要視されていました。古典教育を担当して専門分野を深めてきました。細かく言うと、平安後期の和歌文学の研究をしています。歌集の注釈書などいくつか出しています。京都の冷泉家の調査にも参加しました。その中で私が研究対象にしている、歌学書『俊頼髓脳』の古い写本が出てきて、その調査などを行っています。また藤原定家の周辺なんかもテーマにして勉強しております。——なぜ、平安時代後期を研究のテーマにされたのですか。

もともと仏教思想を学びたいと思っていました。学生のころ方丈記を読んだことがきっかけで、歌人でもある鴨長明に興味を抱きまして、その時代の和歌にひかれていきました。またその分野の権威だった師との出会いもありました。——和歌というものの魅力とは一体どういうところですか。

古典文学全般に言えますが、やはり伝統的な日本の文化を知ることは、必ず新たな発見につながるということです。和歌は叙情詩ですから、人間の感情を表現しています。その中に古い時代の人々の現代に通じる人間性がある、

それを再発見できるというところですね。

——和歌文学を研究していく難しさというものは何ですか。

一つは私がやっているのは文献学という学問で、古い文献を読まないといけません。そうすると、写本のような古い文献を読み解く上で、ある程度、職人的な技術の習得や専門知識が必要になります。だから、若い世代の今後の育成をいかに進めていくかが課題です。教育的方針もあって伝統文化に対する関心がだんだん薄らいできていると思います。それに合わせて研究者も全体的に減少しています。一方で情報化が進んでいますから、研究機関の業績がデータベースなどで公開され最新の成果が使いやすくなっています。研究の利便性は増してきていると思います。ですから、今までできなかったような研究がこれからは可能になることも予想されます。

——一番最初にお聞きしたのですが、冷泉家の具体的な調査についてお聞かせいただけませんか。

800年位前に活躍した大歌人藤原定家の子孫の方が、とても古い文書古典籍を守り伝えておられて、和歌・歌道の家として知られている家柄です。今まではお蔵の中に神仏を敬うがごとく、大切に保持され、非公開だったんです。近年になって、それらが、影印(写真複製)本という形で一般に公開されました。平成4年から冷泉家時雨亭叢書として刊行され平成21年

に完結(全84巻)しましたが、調査を通して私も一部解題を書かせてもらっています。

知られていなかった古典籍の公開は、大変なことなんです。例えば1000年ほど前に清少納言の書いた枕草子のオリジナルはもう失われているわけです。そうすると枕草子は写本で読まないといけない。ですからオリジナルに近い古い写本が発見されると、それを調べてオリジナルをできるだけ復元するという作業が基礎的な研究になります。その上で作品を読み解くことで、その時代に書かれた人間の姿に近づいていける。

冷泉家などで、何百年の歳月を経て大事にしてこられたものが、公開されるというのはすごく意味があることなんです。定家自筆本もあるので和歌文学研究者にとって冷泉家所蔵本の公刊は大事件なのです。

——相愛大学ならではの研究のやり易さなどありますか。

相愛には春曙文庫という貴重資料があります。本学で学会などを開いても全国の先生方が「さすが相愛だ」と言ってくださいます。文学の伝統が相愛大学には間違いなくあります。図書館にもその関係の本はたくさんあり、蔵書は関西圏でも特別に多いと思います。他の大学の先生方が自分のところのないものを見に来たりしています。国文学を勉強する環境は、伝統として充実したものがあります。

——最後に、相愛の学生さんたちへメッセージをお願いします。

文学は、先にも述べたように人生の本質を描いています。愛情だとか勇気だとかの感情や人間的な出来事を描いています。私たちが普通に生活して感じている身近なものも対象です。だからあまり難しく考えない方がいいと思います。しかし一方でそれを研究していくことは職人的に読み解く地道な作業ですので、積み重ねがなければいけません。だから学生諸君の中でも、すぐに結果が出ないと自分には無理だと判断してしまう人も多いかもしれません。少しがまんして積み重ねていくと、パッと開ける世界があります。それをやっぱり大切にしたいと思います。それと、先ほど自分がなぜこのような道に進んだのかをふりかえったときに、本との出会いがあったと述べました。方丈記との出会いが、今の自分の方向を示してくれたと思っています。また、他の先生方もそういう本との出会いがあって今があると思うので、そういうことを発掘してもらって面白いかなと思います。



生と死を、今考えるⅢ

——がん免疫療法の最前線

相愛大学 × 大阪府立急性期・総合医療センター × 森ノ宮医療大学 連携シンポジウム

相愛大学×大阪府立急性期・総合医療センター×森ノ宮医療大学連携シンポジウム「生と死を、今考えるⅢ “疫を免じる” — がん免疫の力」が10月20日、大阪市住吉区の府立急性期・総合医療センターで開かれました。シンポジウムには約200名が参加。基調講演やパネルディスカッションのほか、ミニコンサートや落語もあり、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。



相愛大学音楽学部生で作る弦楽四重奏団「モーヴェケルテット」によるミニコンサートの後、杉山治夫教授(大阪大学大学院医学系研究科)が「ここまで来たがん治療 WT1 がん免疫療法最新の成果」のテーマで基調講演を行いました。杉山教授は「WT1 ペプチド」というがんワクチンを開発し、新薬承認を目指して臨床試験の段階に入っています。講演は、WT1 ペプチド免疫療法の原理について解説し、「標準療法に比べても効果を上げている。がんを治すのは最後は自分の免疫しかない」と結びました。また同センターの谷尾吉郎氏(森ノ宮医療大学医務局長)が「がん治療に関する免疫力」のテーマで関連講演を行い、自然免疫、獲得免疫などの仕組みや「がんの自然退縮」について説明し、「積極的に人生に向き合う姿勢が免疫力を高める」と話しました。

講演に続き、肝臓がんで闘病中の落語家、

笑福亭松喬さんが古典落語「犬の目」を披露。嘶の枕では、昨年、自身ががん告知を受けた際のエピソードなどもユーモアを交えて語り、参加者の笑いを誘いました。松喬師匠は今秋から年4回の独演会を4年にわたって続ける「松喬十六夜」をスタート。松喬師匠は「奇跡は起きるのではなく、起こすもの。(十六夜を)奔走したい」と決意を披露しました。



続く「免疫と健康—笑いは健康の原点」をテーマにしたパネルディスカッションには、浅田章教授(相愛大学人間発達学部)、青木元邦

教授(森ノ宮医療大学保健医療学部)、山田義美氏(府立急性期・総合医療センターのがん患者会「ひまわりの会」会長)、谷尾氏のほか、松喬師匠もパネリストとして登壇。コーディネーターは釈徹宗教授(相愛大学人文学部)が務めました。浅田教授は「落語を聞くと炎症がおさまった」「笑いで血糖値の上昇が抑えられた」など笑いが健康に良いことを立証した学術研究を紹介。「笑いは健康への復元力を高める」と話しました。青木教授も吉本興業と協力して実施した「笑いと健康」に関する研究を紹介しながら「笑いはQOL(生活の質)の向上につながる」と述べました。浅田教授らの話を受けて、山田氏は「ひまわりの会の活動に『笑い』を取り入れていきたい」と話し、松喬師匠が「笑うことに副作用はありませんから」と言うと、会場は笑いとなごやかなムードに包まれました。

学科長に聞く

音楽マネジメント学科の未来

～新学舎での一年を通して～

音楽学部 音楽マネジメント学科 安井敏雄学科長



—ビジネスの中心地でもある本町への学舎新設にともなって、南港とは違う学生たちの日々の生活状況について、お聞かせ下さい。

演奏ホールであるアンサンブル・スタジオ、録音調整室、楽器練習室、そしてパソコン教室など素晴らしい設備が備わっており、学生たちは益々意欲的に学業に取り組んでいます。例えば『合奏』のクラスでは、金管アンサンブルの学生たちが活発に練習していますし、『録音の技術と表現』のクラスでは、最新の録音機材・設備を使ってチェロの林裕准教授の本格的なCD録音を3日間かけて行いました。大阪のビジネス中心街にあるので、地域のイベント・コンサートなどで企業との連携や社会への接点が多くなり「ビジネスマナー」などにも敏感になってきています。

—さらなる発展の実現のために今、学科で取り組まれていることなどがあれば、お聞かせ下さい。

「IT」「経営学」「音楽」という3つの分野をシステマチックに学ぶ学科ですが「基礎」の履修の深化だけでなく、「応用実践」としての学生たち主導のコンサート・イベント企画、あるいは「Ustream配信」や「初音ミク」などの素材を使ったインターネットやコンピューター応用などの実習を増やします。演奏家を目指す音楽学科の学生に演奏技術を学ぶと同時に「成果発表」として演奏する機会が必要なのと同じように、本学科の学生には「プロジェクトの企画・実行する機会」が必要なのです。既に「堺筋アメニティ」や「道頓堀ウォーク」など、地域イベントにも積極的な運営参加も始めており、今後も増やしたいと思っています。また秋には進路指導も兼ね、音楽ビジネスの状況理解のため「東京研修旅行」を始めました。ベンチャー企業を訪問し、CM制作の事例、サントリーホールの見学、運営・事務の仕事、またCDから音楽配信に急変する業界の話、著作権の問題、あるいは中国TVビジネス進出事例など、直接「現場」の話の聞き取りました。学生も刺激を受け大変喜びがありましたので今後も続けたいと思います。

—本学に就任される前に、ITビジネス界で活躍されていたとお聞きしております。その観点から、社会へ巣立つ学生たちに求められることは何かお教え下さい。

学生には「人間力」「チャレンジ精神」「外から内を見る訓練」の3つのことを機会があるたびに話しています。「Webの制作」にしる「イ

ント制作」にしる、グループでしか仕事はできませんが、私の経験してきた「製造現場」や「ソフトウェア開発」、「企業の経営」でも全く同じです。その時生じた問題に対して、「コミュニケーション」「チームワーク」の力をベースに、「課題」を整理し、まとめあげて「実行」し、「解決」することが必要です。この能力は、昨今学生のみならず社会人にも欠如しています。私はこれらを「人間力」そのものと定義しています。

私はエクセレントカンパニーと言われるグローバルIT企業に外国滞在を含め、長年勤務しておりました。その後、180度異なる国内の通信ベンチャーの「起業・立ち上げ」を、創業者と一緒に経験してきました。皆さんには是非「チャレンジ精神」を常にもち続け、「新しいことに挑戦」してほしいと思います。「情熱」をもってあたれば苦しくても必ず通じ、道が拓けることを経験しました。若い時には特に大切ですね。

そして自分が迷ったり、悩んだりする時、あるいは新しいことを始める時に、閉じこもって自分の近くの周囲だけを見るのではなく「外から中」にいる自分をみつめ、理解して「自分自身が納得する行動方針」をつくる必要があると思います。これは「外国(外)から日本(自分)」をみる訓練と同じことです。



好きなヴァイオリンは練習できず困っています
音楽学部 音楽マネジメント学科
http://soai-mgt.jp
安井敏雄プロフィール
http://www.soai.ac.jp/univ/teacher/yasui.html

第81回 日本音楽コンクール 本学卒業生 松岡恒介さんが3位入賞

「今回の日本音楽コンクールについて、3位という結果はもちろん悔しさもありますが、素直に嬉しいです。前回は5位でしたので、なんだか参加賞を頂いたような気持ちになりました。それも今回3位以上の入賞が目標だったので、結果を残せた事はとても意味があったと思います。大学に入ってから、先生方のご指導をはじめ、同期生との切磋琢磨、先輩・後輩との深いつながりは本当に財産です。これまでの経験や積み重ねを生かして、これからはオーケストラプレイヤーとしての力をさらに高めていきたいと思っています。作曲家や時代背景を深く知り、そして基礎の力を高め、全体の響きを作れるような奏者になっていきたいです」(本人談)

プロフィール: 松岡恒介 (Trumpet)

相愛大学音楽学部を経て、同大学音楽専攻科を修了。「第19回相愛オーケストラ・コンチェルトの夕べ」にて、J.Haydnの協奏曲を協演。いずみホールにて同大学卒業演奏会に出演。第78回日本音楽コンクール 5位入賞。第81回日本音楽コンクール 3位入賞。これまでにトランペットを、早坂宏明、椿弘の両氏に師事。また、飯塚一郎、エリック・オビエの両氏のレッスンを受講。



デビュー30周年を記念して 西本願寺・国宝大広間で初のコンサート

世界的なヴァイオリニストである五嶋みどり氏(相愛大学客員教授)のデビュー30周年特別プロジェクト全国ツアー2012の関西公演(学校法人相愛学園ほか主催)が7月20日、21日の2日間、京都市下京区の浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)で開かれました。

初日は書院内の対面所に客席が設けられました。対面所は国宝に指定されている203畳の大広間で、欄間に雲中を飛ぶ鴻(コウノトリ)の透かし彫りがあることから「鴻の間」とも呼ばれています。

コンサートに先立ち、金児曉嗣相愛学園理事長・相愛大学学長が「対面所でヴァイオリンのコンサートが開かれるのは初めてと聞いています。五嶋先生のヴァイオリンの素晴らしい音色をご堪能ください」とあいさつ。五嶋氏は対面所前の南能舞台(重要文化財)でバッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番イ短

調」など3曲を演奏し、約400名の聴衆を魅了しました。

2日は、親鸞聖人の御真影(木像)が安置されている御影堂(重要文化財)に会場を移して開催。御影堂にはほぼ満員となる約1,150名の聴衆が詰めかけました。

刺激的なマスタークラスレッスン

6月12日、五嶋みどり先生を迎えて公開レッスンが行われました。柏山七海さん(3回生)がフランクのヴァイオリンソナタ、松岡井菜さん(1回生)がクライスラーの小品、比奈本茜さん(3回生)がバガニーニ奇想曲などを弾き、各1時間ずつのレッスンを受けることができました。エネルギーで暖かくわかりやすい、内容の濃いレッスンでした。五嶋先生の弾かれる短いパッセージだけでも吸い込まれそうで、とても刺激的であったという間の3時間でした。世界的に活躍されている演奏家の演奏を間近で見ることができたのも、学生たちにはとても興味深い経験になったと思います。 田辺良子(音楽学部音楽学科教授)



相愛オーケストラ

「びわ湖ホール特別公演」と、合宿を終えて

相愛オーケストラ委員長 中谷 満

8月19日、滋賀県立芸術会館びわ湖ホールにて、尾高忠明客員教授の指揮下、相愛オーケストラびわ湖ホール特別公演が行われました。

この日は、相愛オーケストラが浜松で例年行っている夏合宿(15~19日)の最終日であり、オーケストラメンバーにとっては大変ハードなスケジュールでした。合宿は、8月15日早朝に新大阪にて集合、バスで浜松に移動し、16時半には尾高教授との合奏が始まりました。翌日からは、早朝のラジオ体操に始まり、12時まで練習。昼食後は相愛オーケストラ合宿の伝統「午後の昼寝」。この時間は一切音出し禁止です! 創始者である故・斎藤秀雄氏の教えです! その後はひたすら練習、23時の就寝まで続けました。もちろん、練習は合奏だけでなく、管弦打分奏、楽器別の細分奏などが含まれます。指導員は、管弦打の専任教員は勿論、指揮者の小林恵子氏、今回の公演のためにフライブルグ大学(ドイツ)からお招きしたチェロのクリストフ・ヘンケル氏(相愛大学客員教授)、大阪フィルハーモニー交響楽団の元コンサートマスターである長原幸太氏、ホルン奏者の野田篤一氏、村上哲氏、コントラバス奏者の林俊武氏らにも参加していただきました。連日の厳しい練習を仲間と一日を過ごす中で、互いのコミュニケーションやチームワークも強固になり、オーケストラ演奏に必要な各演奏家との信頼関係もより深まりました。

そして迎えたのが19日のびわ湖ホールでの公演です。早朝にバス4台で移動し、リハーサルを経て17時の開演を迎えました。プログラムは、前半が、ストラヴィンスキー作曲「弦楽のための協奏曲 二調「パゼール協奏曲」とハイドン作曲のチェロ協奏曲ハ長調で、後半はR.シュトラウス作曲「英雄の生涯」です。ヘンケル氏によるチェロ独奏、小栗まち絵本学教授によるヴァイオリン独奏、尾高客員教授の名演、学生たちのハツラツとした自信に満ちた演奏で、場内大喝采のうちに終わりました。

本公演では、滋賀県の沙羅の木会の役員の方々、会員の皆様、そして本部の会長様、役員の皆様には大変お世話になりました。和歌山からも、沙羅の木会の皆様がお泊まりがけで駆けつけてくださいました。本当に多くの方々のご支援ありがとうございました。



第58回定期演奏会(10月19日・シンフォニーホール)



10月19日には、シンフォニーホールにおいて、第58回定期演奏会が開催されました。

コンクール受賞報告

平成24年10月8日現在

- 第2回東京国際ヴィオラコンクール 第3位入賞 牧野葵美(ヴィオラ) 2009年3月音楽学部・特別奨学生として卒業。このコンクールで日本人として初めての入賞者。
- 第16回松方ホール音楽賞 山本彩衣子(マリンバ) 2011年3月音楽専攻科修了
- 第16回松方ホール音楽賞 奨励賞 大石橋輝美(マルチパーカッション) 音楽学科4回生
- 第13回大阪国際コンクール アンサンブル部門 第3位 サクソフォンアンサンブル 辻本純佳(Sop・3回生) 松葉 彩(Ten・2回生) 白石尚美(Alt・4回生) 板倉 峻(Bar・2回生)
- 第13回大阪国際コンクール 木管楽器部門エスポール 高野智世(フルート) 2011年3月音楽学科卒業
- 第23回堺ピアノコンクール F部門 銀賞 加藤美咲 音楽学科2回生

学部長に聞く

人文学部の再編と未来

人文学部 山本幸男学部長

—平成25年度から、人文学部が再編されます。具体的にはどのように変わるのでしょ
うか、お聞かせ下さい。

価値観の多様化と少子化という現実に対応するため、既存の3学科(日本文化、仏教文化、文化交流)を1学科(人文学科)にして、学科内に6専攻(日本文学・歴史文化、大阪・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会)を設け、定員を90名に半減したことです。人文学部人文学科に入学した学生諸君は、1・2年次に幅広く人文学の授業やキャリア教育を受け、3年次に自分に見合った専攻に進むことになります。また、各専攻は10~20名程度、ゼミは1~2コマ開かれますので、本学部ならではの少人数教育に拍車がかかりそうです。

—再編に伴い、人文学部がこれから歩む目標、方向性について、お聞かせ下さい。

ひとこと言っておくと、人文教育を堅持し、その重要性を社会や教育現場に発信し続けることです。人文学(哲学・宗教学・歴史学・文学・心理学・言語学・社会学など)は、人が社会で生きていく上で不可欠な学問であり、豊かな人生を送るための必備のアイテムです。残念ながら、現今では人文教育は重視されているとは言えませんが、人文学部を選んでくれた学生諸君には、良い人生を歩んで頂くために、私たち教員は全力でサポートさせていただきます。

—再編を機に、さらなる発展を目指す、人文学部の魅力についてお聞かせ下さい。

学生諸君が、自分らしい自分を見つけること



ができる学部です。各学年ごとに多様な科目が提供されますので、きっとお気に入りの学びに出会えると思います。「好きこそ物の上手なれ」です。自分に合った学びに組み込めば、人間力(ものごとをよく考え、自分の進む方向を適切に判断できる力)が向上し、就職に際しても大きな武器になります。

—人文学部に今必要なこと、またはそのために、何かお考えになられていることがあれば、お聞かせ下さい。

社会的認知度を上げることです。相愛といえば音楽といわれます。人文学部もあることを知ってもらいたい。そのためには、学部にもっと個性を加える必要があります。平成20年度から、教育のグローバル化を見据え、中国の主要

人文学部公開集中講義 『みんなの現代霊性論』



さまざまな知見が飛び交う 強烈な3日間

を契機として浮上したのは、「日本人の霊的成熟」についての問題である」と指摘しています。「霊性(スピリチュアリティ/宗教性)」というテーマは、まさに私たちが取り組まなければならない課題のひとつです。

講義では、「先駆的な直観」「非人間的領域」「自分宛てのメッセージ」など、内田氏独自の論が展開されました。受講された皆さんも、あらためて現代社会や現代人のあり様を見つめなおすことになったようです。

また今回の講座は、日替わりで個性的なゲストを招いて内田氏と対談するというユニークな形式。教室は、「現代霊性」をキーワードに繰り広げられる知のワンダーランドと化しました。初日は、在野の数学者・森田真生氏を迎えました。東京大学数学科を卒業後、福岡県の糸島市に数学道場「懐庵」を立ち上げ、独自のスタイルで数学研究を続ける異才の研究者です。

内田氏との対談では、「数学はとても宗教的な営みである」といった話が展開されました。

2日目は、平川克美氏の登場でした。経済やビジネスを含め幅広い領域で、深い洞察に基づく独自の論を展開している方で、立教大学大学院の教授も勤めておられます。内田氏とは、子供の頃からの親友です。この日は、取りざたされている最中の「尊厳死法案」について意見が交わされました。

3日目は、現代を代表する哲学者である鷲田清一氏。大阪大学総長を経て、現在は大谷大学教授に就任されておられます。南港には宗教施設がないことについての議論が飛び出すなど、知的刺激にあふれる時間でした。

内田氏の講義を軸として、さまざまな方面から「宗教心」や「宗教的な態度」に関する知見が飛び交う強烈な3日間でした。



今年も夏の終わりに、3日間連続の公開集中講義が開催されました(8/29~8/31)。進行役は釈徹宗教授、講師は内田樹氏(神戸女学院大学名誉教授)です。内田氏は現在、最も大きな影響力をもつ言説者のひとりであり、武道家としても著名な方です。

集中講義のテーマは「みんなの現代霊性論」でした。内田氏は、かねてより「東日本大震災

大学から留学生の受け入れを進め、学部教育の活性化につながっています。また、平成22年度から人文系の著名な講師を招き、シンポジウムや公開集中講義などを開催しています。これには、教員や助手の皆さんの他に職員の方々や学生諸君にもご協力を頂いております。おかげさまで、規模は小さいけれど、留学生教育に熱心に取り組み、人文学を社会に開放する面白い学部といった評価をいただくようになりました。まだまだ発展途上ですが、こうした地道な努力を重ねることで、人文学部のブランド力が向上するものと確信しております。私たち教員は教育力に自信を持っています。また、キャリア教育も充実しています。あとは、こんな学部があるということを社会に周知してもらうことです。

—新たな人文学部の受験生へ、メッセージをお願いします。

人生は長いのですから、そんなに早く将来を見切らずに、人文学部で自分の可能性を見つけて下さい。若き日の夢は人生の宝物になりますよ。

メディアで活躍する

人文学部教授陣

平成24年主なメディア系活動

- 釈徹宗**
- 3月 「特報フロンティア」 NHK 「8時だヨ! 神さま仏さま」 FMaiai
 - 5月 「スーパーニュース・アンカー」 関西テレビ 「芸能人駆け込み寺」 TBS
 - 6月 「8時だヨ! 神さま仏さま」 FMaiai
 - 8月 「落語でブツ」 NHK Eテレ
 - 9月 「落語でブツ」 NHK Eテレ 「みほとけとともに」 ラジオ・西本願寺の時間 「京のあったか円かじり」 KBSラジオ 「8時だヨ! 神さま仏さま」 FMaiai
 - 10月 「スーパーニュース・アンカー」 関西テレビ (以降、準レギュラーとして不定期出演)

- 前垣和義**
- テレビ
- 「所さんの目がテン!」 日本テレビ
 - 「Nスタ」 大阪発 TBS
 - 「news BIZ ナゼ解きOSAKA」 テレビ大阪 ラジオ
 - 「Talk魂765GO!GO!イチ」 「関西でっせ!」 YBSラジオ
 - 「Jungle —Juice」 FM802



左から、江弘毅氏、上田假奈代氏、直林不退准教授

大阪のインテリジェンス

千葉真也教授

人文科学の挑戦

第5弾

浪曲師 春野恵子

共通教育センター教授 千葉真也

講談師 旭堂南海

人文学部日本文学専攻特任教授 前垣和義

「編集集団140 B」取締役編集責任者 江弘毅

詩人 上田假奈代

人文学部仏教文化学科准教授 直林不退

春野恵子氏

人文学部では、平成22年から釈徹宗教授のプロデュースによる「人文科学の挑戦」と題するシンポジウムを開催し、毎回好評を博しています。今回は、その5回目。これまでとは異なり、オムニバス形式で、各界の著名人を招いて本学の教員が「大阪のインテリジェンス」をめぐって対談する、という刺激的なプログラムでした。

まず、最初に登場したのは、上方浪曲界の期待の星、春野恵子氏。一声聴いただけで圧倒的な存在感が伝わってくる優れたもの。東大卒は伊達ではないと変に感心させられました。演目は「おさん・茂兵衛」。生で浪曲を聴く機会が少ないだけに貴重な体験でした。その後は千葉真也教授と近松作品などを通しての大阪の知性をめぐる対談。

2番目は「待ってました!」と声をかけたくなる講談師の旭堂南海氏。演目は「岩本栄之助物語」。ユーモアたっぷりに話が始まり、いつしかディープな大阪の近代史へ。聴く者を惹きつけてやまない芸の力に感服です。対

するは、大阪のおばちゃん学でお馴染みの前垣和義特任教授。こちらも近代の大阪には詳しい。いずれも一家言をお持ちの2人の先生が蘊蓄を傾けて大阪を熱く論じれば、遂に知と笑いの化学反応が起こり、場内は割れんばかりの拍手喝采。

最後は雑誌編集者でだんじりを語れば右に出る者はいない江弘毅氏と、コルムを主催され、マスコミへの露出度が上昇中の詩人・上田假奈代氏、それに僧籍者である直林不退准教授が加わってのトークセッション。江氏の話力にわくわくさせられ、上田氏の「私は声を見ました」との発言に度肝を抜かれ、直林准教授の本場仕込みの説教節には思わず体が揺れてしまいました。言葉はなんて豊かな力を持っているのだろうと素直に納得させられました。

真夏の午後、楽しい時間は瞬間に過ぎてしまいました。

(7月28日日本願寺津村別院 津村ホールにて)

めざせ!!「食育のできる管理栄養士」 —産学官協働による食育実践!—

学生が考えたコンビニのお弁当!
食育の実践力がパワーアップ!!

発売!!

7月から約3ヶ月にわたり実施された「産学連携お弁当プロジェクト」で、発達栄養学科の学生の愛情がたっぷりつまったお弁当ができました! 相愛大学発達栄養学科の産学連携事業の一環として、1~3回生(26名)と(株)ジェイアール西日本デリーサービスネット、シノフーズ(株)、(株)日本アクセスの3社がコラボしたお弁当がいよいよ

発売されます。第1弾は、12月10日(月)~12月24日(月)、第2弾が1月7日(月)~1月21日(月)、JR西日本近畿エリア(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県)のハート・イン113店舗と一部のキヨスク各店で期間限定のお弁当4種、おにぎり4種です。ぜひご購入ください。



人間発達学部 発達栄養学科



人間発達学部 子ども発達学科



真宗保育学会第19回大会が、本学南港キャンパスを会場として9月28日(金)・29日(土)に開催さ

「真宗保育学会第19回大会」 レポート(南港キャンパス)

れました。北畠典生氏(学会理事長)より本学における本年度の学会開催依頼があり、子ども発達学科で企画・運営を担当しました。開催に至る道は平坦ではありませんでしたが、学内各部署の協力を得て盛会のうちに終了することができました。大会の内容をその一部ではありますがレポートしたいと思います。

今回の大会テーマは「真宗保育の確立をめざして~今を生きる子どものしあわせを考える~」でした。大人たちが現在の社会的状況を直視し、あらためて今を生きる子どものしあわせについて考えるため、子どもたちとかかわりあう種々(保育現場・小児医療・保育者養成)の立場からの話題提供か



ら、日々展開するかわりの質をふりかえろうという趣旨です。

大会1日目は開会式、基調講演、シンポジウム、懇親会が行われました。開会式は、北畠学会理事長のご挨拶、金児学長のご焼香、会場校代表として大谷紀美子学園長のご挨拶と、厳かな雰囲気で行われました。



大阪秋の大イベント! 御堂筋kappo2012に出展



昨年に続いて10月14日に開催された御堂筋kappoに「めざせ!きみも食べものはかせ」というテーマで体験型ブースを出展しました。3回生を中心に朝食、野菜、おやつ3つのコーナーを企画し、当日はそれぞれ2名ずつの学生が子どもたちへの食育に奮闘しました。また、学生が考案し、リボンを通して作った「食べものはかせ」認定メダルを手渡し、子どもたちは大喜びでした。



第11回愛情お弁当コンテストで 特別賞受賞!

イズミヤ(株)と大阪府主催、食品企業18社協賛による「第11回愛情お弁当コンテスト」が行われ、全国より339作品の応募がありました。8月1日開催の「おおさか食育フェスタ」会場にて、府民投票と専門家による審査があり、発達栄養学科1回生、西本侑加さんが考案した秋の食材が満載の「秋の香弁当」が上位6作品に選ばれ、審査員特別賞を受賞しました。

大阪ヘルスジャンボリー2012 測定体験コーナーで体組成測定!

10月20日、大阪市主催の「大阪ヘルスジャンボリー2012」が、長居公園で開催され、相愛大学では、大学コンソーシアム大阪の会員大学として、大阪電気通信大学などと一緒に「測定体験コーナー」を担当しました。発達栄養学科の学生たちは、「In Body430で体組成測定」、「食生活自己点検表による食事診断」を担当しました。青空が広がるオープンスペースの会場で、参加者の皆さまの温かい励ましのもと、学生たちには実践力を身につける貴重な機会となりました。



基調講演では、米谷美和子氏が「今、子どもたちを取り巻く大人の役割」について豊富な現場経験をふまえて、実弟の星野監督(東北楽天ゴールデンイーグルス)のエピソードを交えながらわかりやすくお話してくださいました。



2日目の自由研究発表では、音楽教育や保育者養成教育のあり方、動物介在教育等に関する口頭発表と質疑応答が活発に行われました。



ハイアットリージェンシー大阪にて行われた懇親会は、音楽学部の前田昌宏教授率いる『相愛サクソフォンアンサンブル』による歓迎レセプション演奏に始まり、終始和やかな雰囲気でした。



大会当日は受付等それぞれの部署で、子ども発達学科学生がスタッフとして手伝いました。学生スタッフは大いに活躍してくれました。参加者のみなさんに声をかけていただいたり、仕事を褒めていただきました。



当日の 会場の様子



秋の街並み

和の装い

— 着物で歩く御堂筋

高3着付け体験



11月2日、高校3年生による「着物で歩く御堂筋」が絶好の天気に恵まれたなか行われました。

今年も、京都和装産業振興財団のご協力で用意していただいた町着に講師の先生方の指導を受けながら着替えた後、事前に準備された資料をもとに、着物を着た時のマナーや立ち居振る舞いなどの説明を受けました。津村別院(北御堂)へ場所を移し全体集合写真を撮りました。その後、校庭でクラスごとに写真を撮りました。

着物をまとい、少し大人びた姿を友人同士で、また先生と一緒に記念写真と、カメラ片手に賑やかな時間が過ぎていきました。

昼食を軽くいただいてから、船場の街の散策へ出かけていきました。

今年で13回目の着付け体験ですが、着物姿で船場の町を歩くことで、新しい発見をしてきた生徒がたくさんいたようです。

御堂筋に面した企業を着物で訪問する体験も行い、生徒20名ほどが株式会社竹中工務店、大阪ガス株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、京阪神ビルディング株式会社などに伺い、いろいろな話を聞くことができ、貴重な体験ができたと思います。

約3時間の散策の後、帰校した生徒たちは、「楽しかった」という表情と、「足が痛くて疲れた」という表情の半分半分の複雑な表情を見せていました。更衣後、講堂に集合し、講師の先生方にお礼のあいさつをして解散しました。



平和と自然の学び 中学修学旅行 沖縄

5月8日、朝早くから多数の保護者のお見送りを受け、中学3年生55名全員で関西国際空港を出発し、沖縄県那覇空港に降り立ちました。天候は、私たち一団を快く迎え入れてくれるかのように、一面青い空の快晴。早くも沖縄を体験することができました。

ひめゆり平和祈念公園では、皆で作成してきた千羽鶴をお供えさせていただきました。ひめゆり平和祈念資料館では、様々な展示品や映像を見ることで、戦争の恐ろしさ、愚かさ、平和の尊さを学ぶことができました。また、今年度より宿泊場所を名護へ移し、広大な海をどの部屋からも見ることが出来る、リゾネックス名護に宿泊しました。

2日目は雨。しかしその雨も、美ら海水族館

に入ってから止まりました。美ら海水族館では、ジンベイザメや綺麗な色の魚たちに目を輝かせていました。フルーツランドでは、地元の鶏飯を美味しくいただきました。午後から宮古島に移動し、川満マングローブへ行き自然を満喫しました。

3日目は東平安名崎で美しい景色を見学した後、保良泉ビーチでマリンスポーツを体験しました。シュノーケリングとシーカヤックで沖縄の綺麗で大きな海を泳ぐ魚と共に、海を満喫しました。午後からは雪塩製塩所、砂山ビーチ、宮古島市総合博物館などを見学しました。移動のバス内では、ガイドさんが三線を手に、沖縄民謡を歌ってくださいました。

最終日、疲れも見せず元気いっぱい宮古島を後にし、那覇に到着後、世界遺産がある首里城公園に向かいました。まず、世界遺産に登録されている玉陵(たまどうん)を見学し

ました。その後、首里城公園内を散策し、沖縄最後の食事は、パフォーマンスステーキをいただきました。シェフのパフォーマンスに歓声と拍手が沸き起こっていました。沖縄を満喫し、那覇空港から一路、関西国際空港に到着しました。解散式を終え、疲れた様子を見せながらも、笑顔で帰宅しました。

この修学旅行を通じて、平和の尊さを感じ、大阪では味わえない自然の美しさも感じてくれたと思います。様々なご協力をいただき、55名全員で参加し、55名全員が無事に帰阪できたことが何よりの成功でした。



お内仏報恩講 111名参列

礼拝室(教員室前)において、平成24年度お内仏報恩講が勤修されました。報恩講は宗祖親鸞聖人のご苦勞を偲ぶと共に、聖人さまがお説きになられます、阿彌陀如来さまのお心とその願いを、あらためて深く味わわせていただくための法要です。私たちにとってもっとも大切なご法縁です。生徒、教職員ならびに育友



100分間テストで集中力養育

— 奈良県で学習合宿

今年で3回目となる学習合宿が、今年も奈良県の多武峰観光ホテルにて、8月1日から4日の3泊4日で実施されました。

前2回同様、英数国の主要3教科を徹底的に学習しました。普段の環境と違うことや、他学年の生徒と共に過ごすことで、互いに刺激し合い、充実した合宿を行うことができました。

今までと異なる点では、最終日に合宿で学んだことの総まとめとして、自分で選択した2教科の100分間テストを実施しました。復習する目的であることはもちろん、模試などでの長時間



受験にも対応できる力を養う目的でもあります。全員が一生涯懸命取り組み、試験終了とともにかなりの達成感があったようでした。今回の合宿も、多くの先生方のご指導やホテルの方々のご協力のおかげで無事成功をおさめました。多くの方々に感謝し、普段の学校生活にこの経験を活かしていきたいです。



アンコールもあり大盛況!

「御堂筋kappo2012」に出演



吹奏楽部

10月14日に「御堂筋kappo2012」に出演しました!

本番1時間前に北御堂の津村ホールにて、「応援しよう!東北 第2回 本町音楽祭 IN 北御堂」に、木管アンサンブル、金管アンサンブル、合奏で「キューティーハニー」「コバカバナ」などを演奏しました。会場内は手拍子などで盛り上がり、最後にはアンコールを頂き「学園天国」の演奏で幕を閉じました。

そのあと、すぐに御堂筋kappoに移動! 御堂筋kappo2012 銀泉備後町ビル前ステージに出演。3.6m×2.7mの狭いステージでアンサンブルを中心に演奏しました。御堂筋は歩行者天国になっていて、沢山の客さんが足をとめて、吹奏楽部の演奏に耳を傾けてくださいました!

大地の力、自然を満喫 高校修学旅行 北海道

9月1日から4泊5日の日程で北海道への修学旅行が行われました。

1日目は昭和新山や有珠山などの迫力ある活火山を見学し、大地の力の大きさを実感しました。2日目は午前中にバームクーヘンやオルゴールづくりなどの各種体験学習、そして午後からは生徒たちが最も楽しみにしていたラフティング。説明を受けて、川に入った瞬間から彼女たちは大はしゃぎで、途中で川に飛び込んだり泳ぎ始めたりする生徒も続出し、終わるころには「楽しかった」「もう1本下りたい」といった声もあちこちから聞こえてきました。3日目午前中は小樽での自主研修や白い恋人パークの見学でおみやげ探しに奔走し、4日目はファーム富田、旭山動物園と北海道らしい風景と自然を



満喫することができました。

北海道ならではの新鮮な海の幸・山の幸にもめぐまれ、ホテルでのバイキング、札幌でのジンギスカン、随所でのアイスクリーム…と、帰阪後の体重が心配になるほど食を堪能していました。

途中、急な行程の変更もありましたが、生徒たちは臨機応変に対応してくれました。この旅行を通して、クラスや学年の団結力、そして相

愛生としての自覚も高まり、学年にとっても大変意義深い修学旅行を無事に終えることができました。

コンクール入賞者

【高校 音楽科】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会ディプロマ賞 細田 知佳 (1年 Pf) ●大阪国際音楽コンクール本選 入選 ●クオリア音楽フェスティバル 高校生部門 本選出場 土井 千紘 (1年 Vn) ●日本演奏家コンクール全国大会 高校Aの部 入選 山縣 朋佳 (1年 Vn) ●第36回ビティナコンペティション 西日本地区本選 入賞 ●第13回全日本アール・ピアノコンペティション エリア大会出場 大出 めぐみ (2年 Pf) ●全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会 審査員賞 水野 加菜 (2年 Cl) ●第17回高槻音楽コンクール ジュニアの部 高校生部門 優秀賞 井口 華奈 (2年 Vn) ●第66回全日本学生音楽コンクール 東京大会本選 入選 芝内 あかね (2年 Vc) ●“万里の長城”国際音楽コンクール 弦楽器部門 高校の部 第1位・中国大阪領事賞 竹西 朋子 (2年 Vn) ●第66回全日本学生音楽コンクール 大阪大会 バイオリン部門 高校生の部 第3位 中村 友希乃 (2年 Vn) ●第5回ミュージックアカデミー in 宮崎 奨励賞 ●第1回秋吉台音楽コンクール 第4位(1・3位なし) 登坂 理利子 (2年 Vn) ●第22回日本クラシック音楽コンクール 優秀賞 全国大会出場 ●高校生のための歌曲コンクール 本選 入賞 榊 千晶 (3年 Vo) ●第22回日本クラシック音楽コンクール 優秀賞 全国大会出場 柳田 さち (3年 Vo) ●ヤマハエレクトーンYEC2012 A部門 大阪エリアオーディション 奨励賞 佐々木 穂奈 (3年 EO) | <ul style="list-style-type: none"> ●ヤマハエレクトーンステージ2012 三木楽器大会 予選 優秀賞 石田 彩子 (3年 EO) 園田 穂月 (3年 EO) ●JEUGIA エレクトーンフェスティバル2012 優秀賞 堤 晴香 (3年 EO) ●第22回日本クラシック音楽コンクール 優秀賞 全国大会出場 ●全日本全楽器音楽コンクール 本選 金賞 全国大会出場 森 智香 (3年 Fl) ●第22回日本クラシック音楽コンクール 優秀賞 全国大会出場 津田 七愛 (3年 Vn) ●デザインK国際音楽コンクール 一般部門 全国大会出場 鹿島 久美子 (3年 Pf) |
|--|---|

【高校 音楽科】

平成24年度 コンサート報告

- 中村 友希乃 (2年 Vn)
- 次世代を担う音楽家たち (5月)
 - マグリシア サロンコンサートにて初リサイタル (5月)
 - 霧島国際音楽祭 タニエル ゲーテ先生推薦によるロビーコンサート
 - ミュージック・グランプリ・フェスティバル in 兵庫 (11月)
 - 毎日コンクール受賞者のためのサロンコンサート (12月)
- 登坂 理利子 (2年 Vn)
- 第1回ムジックフェストなら
 - ウィーンマスタークルゼ選抜ファイナルコンサート
 - フェリーチェコンサートシリーズにてソロリサイタル
 - ハーモニーコンサート ゲスト出演 (10月)
 - マグリシア サロンコンサートにてリサイタル (1月)
- 西川 鞠子 (3年 Vn)
- 期待される若き演奏家の集い (5月)
 - 毎日コンクール受賞者のためのサロンコンサート (12月)
- 芝内 あかね (2年 Vc)
- 「室内楽の夕べ」 (10月)
- 榊 千晶 (3年 Vo)
- 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール入賞者披露演奏会 (1月)

【中学校】

- 原田 友梨佳 (2年 Pf)
- 「長江杯」国際音楽コンクール入賞者披露演奏会 (11月)

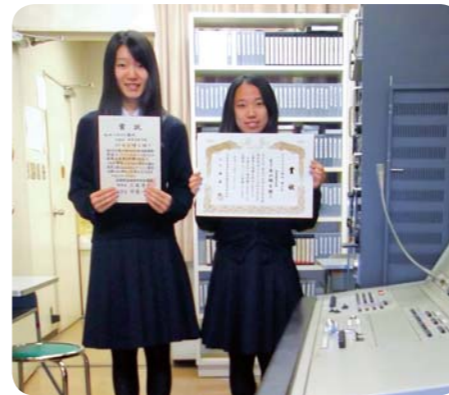
【音楽教室】

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●第17回 KOBE国際音楽コンクール 小学生の部 弦楽器部門 優秀賞・神戸市長賞 花井 結 (中1・受賞時小6) 優秀賞・神戸市民文化振興財団賞 梶原 千聖 (中1・受賞時小6) ●第12回全日本アール・ピアノコンペティション 全国大会 D級 優秀賞 市川 貴一 (中3) ●第18回 熊楠の里音楽コンクール バイオリン部門 Aクラス 第1位・南方熊楠顕彰会会長賞 西岡 舞桜 (小1) 第2位 谷口 芽里紗 (小1) バイオリン部門 Cクラス 第1位 鍵野 佑登 (小5) ●第24回 子供のためのヴァイオリンコンクール 第3部門B 銀賞 谷澤 彩羽 (小4) ●第36回 ビティナ・ピアノコンペティション 地区本選 C級 奨励賞 窪田 隼人 (小4) 入選 生駒 玲佳 (小5) 佐藤 希捺 (中1) 地区本選 E級 優秀賞 ●第6回 全日本芸術コンクール 関西本選 ヴァイオリン部門 C部門 第1位 花井 結 (中1) ピアノ部門 C部門 第3位 南沙希 (中2) ●第14回 関西弦楽コンクール 優秀賞・審査員賞 谷口 芽里紗 (小1) 三差 桃音 (小6) 優良賞 堀江 香凛 (小2) 渡辺 紗蘭 (小2) 田中 響 (小3) 窪田 隼人 (小4) 桑原 七音 (小4) 谷澤 彩羽 (小4) 都呂須 七歩 (小6) 太田 隆奨 (小4) | <ul style="list-style-type: none"> ●第4回 NAGANO国際音楽祭ヴァイオリンコンクール カテゴリーA (小学生の部) 第1位 石川 未央 (小5) 第2位 木村 広 (小4) 第3位 鍵野 佑登 (小5) ●第17回高槻音楽コンクール 小学生高学年部門 ヴァイオリン 最優秀賞 鍵野 佑登 (小5) 中学生部門 ヴァイオリン 最優秀賞 芝内 もゆる (中3) 優秀賞 勝森 菜々 (中3) 高校生部門 ヴァイオリン 優秀賞 石原 優香 (高2) ●第66回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会 バイオリン部門 小学生の部 入選 前田 紀奈 (小4) 石川 未央 (小5) 岡 祐佳里 (小5) 岩谷 弦 (小6) 富永 彩花 (小6) 中学生の部 第3位 芝内 もゆる (中3) 入選 久留 早百合 (中2) 小谷 泉 (中3) 内尾 文香 (高1) ●第66回 全日本学生音楽コンクール全国大会 バイオリン部門 中学の部 入選 芝内 もゆる (中3) バイオリン部門 高校の部 第1位 内尾 文香 (高1) ●第23回 堺ピアノコンクール D部門 金賞 矢田 桃果 (中3) 銀賞 南沙希 (中2) ●第13回 大阪国際音楽コンクール 弦楽器部門 Age-E 入選 桑原 七音 (小4) ●第22回 日本クラシック音楽コンクール ヴァイオリン部門 地区本選 小学校の部 優秀賞 木村 広 (小4) 石川 未央 (小5) 中学校の部 優秀賞 勝森 菜々 (中3) ●第22回 グレンツェンピアノコンクール 滋賀地区予選小5・6年Aコース 金賞 生駒 玲佳 (小5) 優秀賞 北村 はるか (小5) ●第11回 宝塚ベガ学生ピアノコンクール 小学生部門 A級 本選 入選 中村 直路 (小3) |
|---|--|

音楽教室 2013年度 受講生募集

- A日程 3月17日(日) 願書受付2月1日~3月 6日
 - B日程 4月 7日(日) 願書受付2月1日~3月27日
- 募集対象=年齢2年前より大学受験生まで

★「2013年度春期入室準備クラス」開講中 毎月受付
★相愛音楽教室 通信教育《楽典》随時受付



創作ラジオドラマ部門に出場した田中愛紗さん(左)と長尾梨沙さん(右)



アナウンス部門に出場した中村円心さん(左)と越山理紗さん(右)

中高そろって
全国大会出場!

放送コンテストは、高校中学共に個人部門であるアナウンス、朗読と、団体部門であるラジオ、テレビ番組に分かれています。相愛放送部は両部門に参加するため、日々練習を重ねています。

今年度は高校3年1組の長尾梨沙、田中愛紗が創作ラジオドラマ部門で、中学3年2組の中村円心、中学2年1組の越山理紗がアナウンス部門で全国大会出場を果たしました。

放送部は以前より先輩後輩が大変仲の良いクラブですが、今回の大会前もお互い助け合ってコンテストにのぞんでいくという姿勢がよくあらわれていました。中高そろって全国大会出場という快挙も、部員全員の力で勝ち取ったものだと考えています。

高校生の作品、創作ラジオドラマ「六十七年の時を経て」は、本町の空襲で卒業式が行われず、卒業証書を手に入れることができなかった昭和19年度の

全国高校放送コンテストに出場して

卒業生と、昨年の高校3年生との合同卒業式から生まれました。

中村円心の作品は、文化祭コーラスコンクールを題材にしたもの、越山理紗の作品は、自転車乗車マナーについてとりあげたものでした。

高校も中学も、校内の出来事を題材に作品を作るという基本を守り、そこに学生らしいみずみずしい視点を加え、番組部門でもアナウンス部門でもコンテストで高い評価を得ました。

全国大会では残念ながら勝ち進むことはできませんでしたが、本大会を通じて部員たちは、高校、中学、力を合わせて一つの目標に向かっていく難しさと喜びを体験し、成長していくことができました。

今後この出場を励みに、個人部門は切磋琢磨し、団体部門は協調性を発揮し、より一層努力を重ねていきたいと思っております。ご声援よろしくお願いたします。

相愛音楽教室鑑賞演奏会

クラリネット アンサンブルの楽しみ

お話と指揮：酒井 睦雄 (相愛大学音楽学部教授)
演奏：相愛大学クラリネット専攻生



音楽教室では毎年秋に「鑑賞演奏会」と題して、色々な楽器による演奏を交えたレクチャーや、教室出身の著名な演奏家のリサイタルを開催しています。

今年は講師に酒井教授を迎え、クラリネットについてのお話と、相愛大学クラリネット専攻生のみなさんによるクラリネットアンサンブルを聴かせていただきました。

演奏会では普段よく目にするB♭管のクラリネットをはじめ大小さまざまな6種類ものクラリネットが登場。四重奏から18人の大合奏まで酒井教授の楽しいお話を聞きながら、クラリネットの世界を堪能しました。

また今回は年齢前、小・中学生対象の第1公演と高校生対象の第2公演の2回の公演が行われ、第1公演では6種類のクラリネットの音域の広さと音色の違いに子どもたちは興味津々の様子。また高校生対象の第2公演では倍音や移調楽器の説明もあり、体験とともに学ぶ相愛音楽教室ならではの演奏会となりました。

▶ 本学教員の近刊図書

変貌する沖縄離島社会— 八重山にみる地域「自治」

杉本久未子・藤井和佐編

離島での地域社会の課題を多角的に分析。2章「地域におけるナショナルなもの—と那国の対外戦略」を担当。(人文学部 准教授 藤谷志昭)

●264頁 ナカニシヤ出版(2012年6月発行) 定価3,780円(税込)



「仏教教理問答」～連続対論 今、語るべき仏教～

宮崎哲弥、釈教宗ほか 著

仏教者を自任する評論家・宮崎哲弥氏と僧侶5人との連続対談集。

●253頁 サンガ(2011年12月27日発行) 定価1,680円(税込)



いきなりはじめる仏教入門

釈教宗、内田樹 著

宗教や仏教についての根源的な議論を交わすネット上の書簡集。

●221頁 角川ソフィア文庫(2012年4月25日発行) 定価620円(税込)

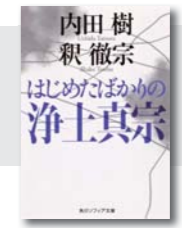


はじめたばかりの浄土真宗

釈教宗、内田樹 著

多方面にわたる対話の中から浄土真宗を学ぶ書。対談「いま、日本の仏教を考える」所収。

●174頁 角川ソフィア文庫(2012年5月25日発行) 定価620円(税込)



浄土真宗 はじめの一步

釈教宗ほか 著

初心者のための浄土真宗入門書。日常生活に沿った丁寧な解説。

●76頁 本願寺出版社(2012年8月発行) 定価1,260円(税込)



大阪の神さん仏さん

釈教宗、高島幸次 著

神社やお寺の特性から都市を語るユニークな大阪論。大阪を見る眼が変わる一冊。

●272頁 140B(2012年8月10日発行) 定価1,575円(税込)

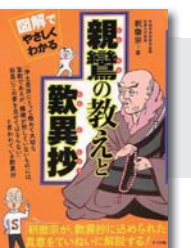


親鸞の教えと歎異抄

釈教宗 著

親鸞とはどんな人だったのか。どんな教えを説いたのか。歎異抄を使って読み解いていく。

●260頁 ナツメ社(2012年8月11日発行) 定価1,575円(税込)





学校法人 相愛学園
2011(平成23)年度 事業報告

I. 法人の概要

■ 1. 学校法人相愛学園の概要

- (1) 建学の理念
- (2) 設置学校(所在地)
- (3) 各学校の収容定員
- (4) 役員・評議員
- (5) 教職員数

■ 2. 教育・事務組織

- (1) 教育研究組織
- (2) 事務組織

■ 3. キャンパス整備

- (1) 事務システムの整備
- (2) 情報環境の整備充実
- (3) 施設の整備

■ 4. 広報活動

- (1) メディアを通じた積極的な情報の発信
- (2) 広報誌等の発行
- (3) 広告の掲出
- (4) 広報活動としての他機関との協力イベント開催

II. 事業報告の概要

● 大 学

■ 1. 教育に関する事項

- (1) 音楽学部
- (2) 人文学部
- (3) 人間発達学部
- (4) 共通教育センター
- (5) 教育改革経費

■ 2. 研究に関する事項

■ 3. 社会貢献に関する事項

- (1) 地域貢献の推進体制
- (2) 地域貢献の活性化

■ 4. 自己点検に関する事項

■ 5. 国際交流

■ 6. キャリア支援・就職支援

- (1) キャリア支援
- (2) 就職支援・就職状況

■ 7. 学生支援に関する事項

■ 8. 図書に関する事項

■ 9. 学生募集に関する事項

● 高等学校・中学校

■ 1. 高等学校・中学校

● 音楽教室

■ 1. 音楽教室

III. 財務の概要

■ 1. 財務の概要

- (1) 資金収支決算
- (2) 消費収支決算
- (3) 貸借対照表

I. 法人の概要

■ 1. 学校法人相愛学園の概要

(1) 建学の理念

学園名の由来となった「當相敬愛(とうそうきょうあい)」という一語は、建学の精神として永く相愛学園を導いてきた。「當相敬愛」は、大乘仏教、とくに浄土真宗の依拠する浄土三部経の『仏説無量寿経』に示されている「當相敬愛、無相憎嫉(當に相に敬愛して憎嫉することなかるべし)」という節の一語であり、「自らを愛するよう他者をも相敬うべし」とその意味を押し広げることができる。さらに言うならば「こころ」「おこない」「ことば」を調えて人生を生き抜くことを教えている。従って、たとえば、相愛大学(以下、本学という)の指針である「當相敬愛」は、今日要請されている教育思想の根幹となる「共生(敬)」「利他(愛)」の基本とも通底する精神である。グローバル化やそれに伴う競争の社会のもと、社会的格差が拡大しつつある現代社会において「當相敬愛」の精神を基盤にした教育思想は「共生」と「利他」を可能にする内的規範意識の形成に深く関与し、それを涵養することを本学の使命としている。

「共生」と「利他」の思想のもとに営まれる教育目標は、

- ① 生命の尊さを学ぶ
- ② 人生の目的を探究する
- ③ 市民的公共性を養う
- ④ 総合的な判断力を養う
- ⑤ ボランティア精神を涵養するである。

(2) 設置学校(所在地)

- ◆ 相愛大学
(南港学舎 〒559-0033大阪府大阪市住之江区南港中4-4-1)
- ◆ 相愛高等学校
(本町学舎 〒541-0053大阪府大阪市中央区本町4-1-23)
- ◆ 相愛中学校
(本町学舎 〒541-0053大阪府大阪市中央区本町4-1-23)

(3) 各学校の収容定員(平成24年3月31日現在)

学部	学科	定員	現員(5/1)	
大 学	音 楽 学 部	音 楽 学 科	480	370
		音楽マネジメント学科	50	19
		専 攻 科	12	16
		計	542	405
	人 文 学 部	日 本 文 化 学 科	300	204
		英 米 文 化 学 科	70	14
		人 間 心 理 学 科	240	161
		社 会 デ ザ イ ン 学 科	180	56
		仏 教 文 化 学 科	60	5
		文 化 交 流 学 科	60	4
	計	910	444	
人 間 発 達 学 部	子 ども 発 達 学 科	400	335	
	発 達 栄 養 学 科	400	278	
	計	800	613	
	合 計	2,252	1,462	
高 等 学 校	普 通 科	360	284	
	音 楽 科	40	75	
	計	400	359	
中 学 校	特 進 ・ 進 学 コ ー ス	150	124	
	音 楽 科 進 学	0	43	
	計	150	167	
高等学校・中学校計		550	526	

(4) 役員・評議員(平成24年3月31日現在)

(掲載省略)

(5) 教職員数

① 教育職員 (単位:人)

大 学				
	専任	特任	契約	備考
音楽学部	24	3	1	
人文学部	19	6	1	
人間発達学部	*1 20	*2 9	2	*1 実験実習助手2名を含む *2 実験実習助手5名を含む
共通教育センター	*3 6	1	1	*3 学長1名を含む
合計	69	19	5	

高 等 学 校 中 学 校			
	専任	常勤講師	備考
高等学校	*4 21	4	*4 校長1名を含む
中学校	12	2	
合計	33	6	

音 楽 教 室	
常勤	1

② 事務職員

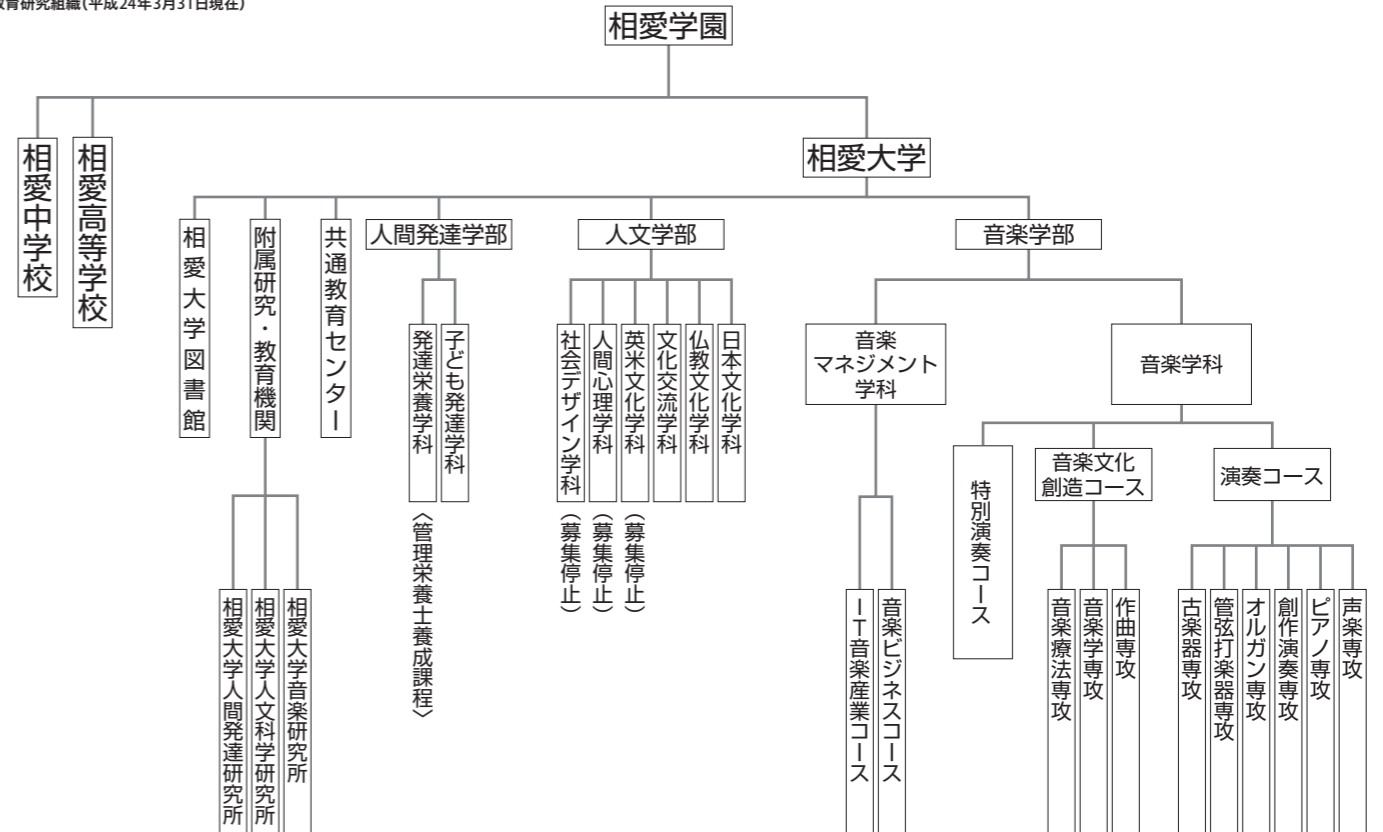
区分	人数
専任職員	40
嘱託職員 教務系	9
事務系	15
健康管理系	2
現業系	1
臨時職員	34
合計	101

(6) 治 革

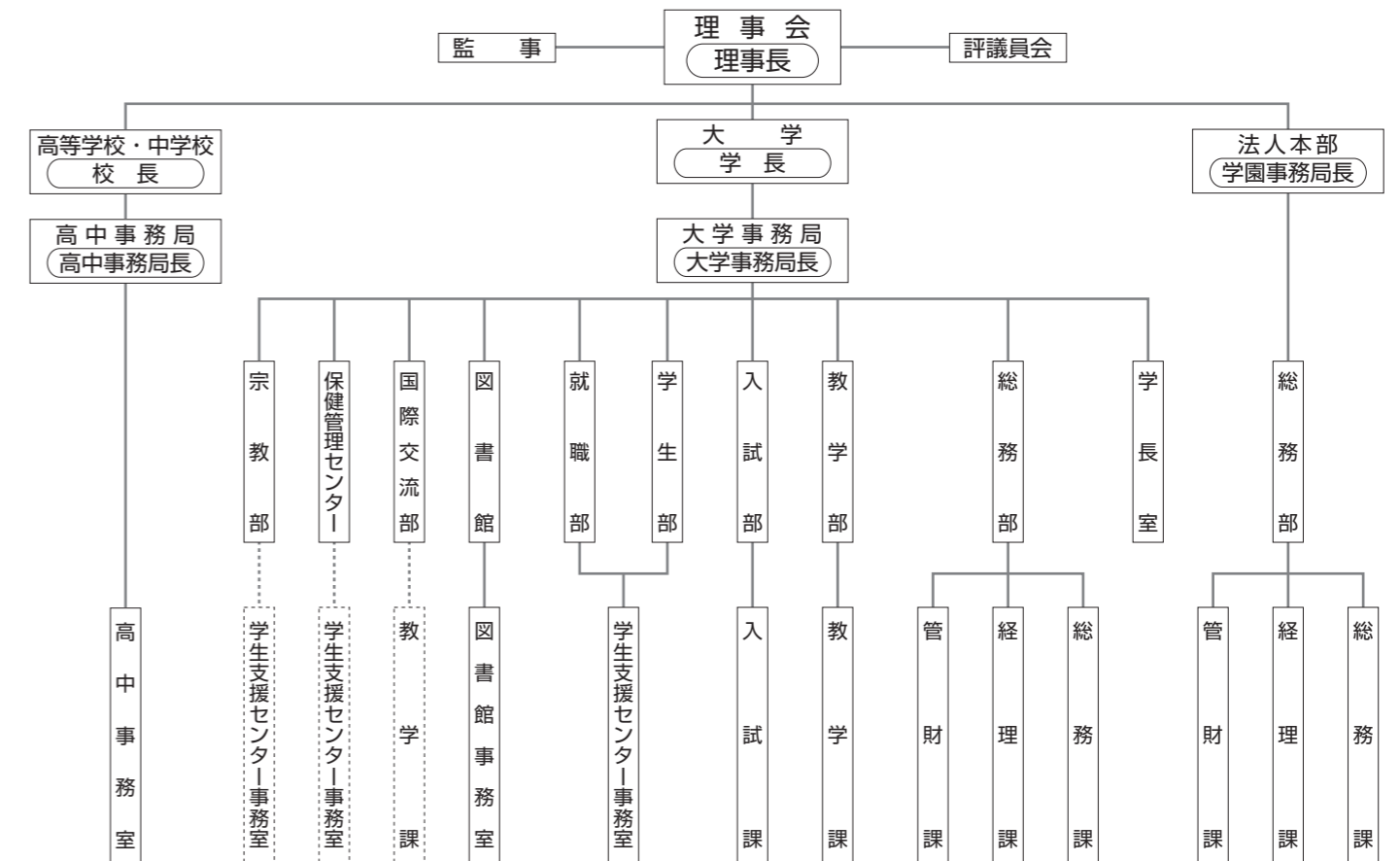
- 1888年(明治21年) 大阪府本町(現高等学校・中学校所在地)に相愛女学校設立
- 西本願寺第二十一宗主明如上人の妹君、大谷朴子初代校長
- 1906年(明治39年) 相愛高等女学校と改称 大阪女子音楽学校設置
- 1911年(明治44年) 本派本願寺直轄学校になる
- 1928年(昭和03年) 財団法人相愛学園設立 相愛女子専門学校設置
- 1937年(昭和12年) 相愛女子専門学校に音楽科新設
- 1947年(昭和22年) 相愛中学校設置
- 1948年(昭和23年) 相愛高等学校設置
- 1950年(昭和25年) 相愛女子短期大学設置
- 1951年(昭和26年) 学校法人相愛学園に改組
- 1953年(昭和28年) 短期大学に家政科・音楽科増設 高等学校に音楽課程開設
- 1955年(昭和30年) 子供の音楽教室開設
- 1958年(昭和33年) 相愛女子大学(音楽学部)設置 大木惇夫作詞 山田耕祥作曲 新学園歌完成
- 1982年(昭和57年) 相愛女子大学を相愛大学と校名変更 音楽学部男女共学を実施
- 1983年(昭和58年) 大学・短期大学を現キャンパス大阪南港に移転
- 1984年(昭和59年) 大学に人文学部設置
- 1987年(昭和62年) 短期大学に英米語学科設置
- 1994年(平成06年) 南港学舎学生厚生施設棟(現学生厚生館)・教育研究棟(現4号館)完成
- 1995年(平成07年) 相愛女子短期大学家政学科食物専攻を生活学科食物専攻に、家政学科被服専攻を生活学科衣生活専攻に名称変更
- 1999年(平成11年) 相愛大学音楽専攻科設置、相愛女子短期大学生活学科食物専攻を食物栄養専攻に、衣生活専攻を人間生活専攻に名称変更
- 2000年(平成12年) 相愛大学人文学部男女共学を実施 音楽学部3学科を統合し音楽学部音楽学科を開設 人文学部に人間心理学科・現代社会学科を増設 相愛女子短期大学に人間関係学科を増設
- 2006年(平成18年) 相愛大学人間発達学部(子ども発達学科、発達栄養学科)設置
- 2008年(平成20年) 学園創立120周年、「新たな始まり」相愛大学人文学部現代社会学科を社会デザイン学科に名称変更
- 2011年(平成23年) 相愛大学音楽学部に音楽マネジメント学科増設 相愛大学人文学部に仏教文化学科、文化交流学科増設

■ 2. 教育・事務組織

(1) 教育研究組織(平成24年3月31日現在)



(2) 事務組織(平成24年3月31日現在)



本学では、2011年度、事業報告の掲載順を以下のとおりといたします。

1. 経営方針、経営理念、教育方針、教育目標、教育課程の概要
2. 教育課程の概要
3. キャンパス整備
4. 広報活動
5. 学務システムの整備
6. 情報環境の整備充実
7. 学修支援室
8. 学生生活支援
9. 国際交流
10. 社会貢献
11. 学生生活
12. 学生生活
13. 学生生活
14. 学生生活
15. 学生生活
16. 学生生活
17. 学生生活
18. 学生生活
19. 学生生活
20. 学生生活
21. 学生生活
22. 学生生活
23. 学生生活
24. 学生生活
25. 学生生活
26. 学生生活
27. 学生生活
28. 学生生活
29. 学生生活
30. 学生生活
31. 学生生活
32. 学生生活
33. 学生生活
34. 学生生活
35. 学生生活
36. 学生生活
37. 学生生活
38. 学生生活
39. 学生生活
40. 学生生活
41. 学生生活
42. 学生生活
43. 学生生活
44. 学生生活
45. 学生生活
46. 学生生活
47. 学生生活
48. 学生生活
49. 学生生活
50. 学生生活

■3.キャンパス整備

(1) 事務システムの整備

①事務システム検討委員会の設置

従来から大学及び学園全体の事務処理の合理・効率化を目指すために、事務局が中心となって事務システムの整備充実のための作業部会を設けてきたが、この部会を公式なものとして推進すべく、平成23年3月に「相愛学園事務システム検討委員会」を設置した。本委員会では現行のシステムの整備・充実と同時に文書や業務フローの電子化をはじめとするさまざまなシステムの導入の検討を行っている。

(2) 情報環境の整備充実

①無線LAN対応機器への環境対応

大学内において学生・教職員が自由にインターネットを利用できる環境を整備するために、一部の校舎に無線LANアクセスポイントを設置した。これにより、学生自身のモバイル機器による学習支援、教職員の持込みPCによる教学処理が可能となった。

②ホームページのリニューアル

平成23年度の新学科設置を機に、大学のホームページをリニューアルした。各学科・部署別のブログシステムを導入し、受験生・社会から必要とされる情報をリアルタイムで発信するとともに、トップページのフラッシュ部分に各ブログを集約するという全国的にも先駆的な手法を取り入れることにより、訪問者が視覚的に情報を得ることのできる構成にした。ブログ以外の告知・報告ページについても従来の静的なものから、視覚効果の高い動的なエフェクトを随所に取り入れ、必要な情報を印象的に魅せる工夫をした。

リニューアルに伴い英語版・中国語版ホームページを公開した。国際的な情報発信に役立つことが期待される。さらなる充実を求めて今後も整備していく。

③相愛大学本町学舎1号館へのPC教室設置

相愛大学本町学舎1号館にWindows専用のPC教室とMacintosh専用のPC教室の設置を行った。音楽学部音楽マネジメント学科を中心に、IT教育、音楽制作教育の実施に対応した環境を整えた。

④ネットワークの再構築

平成24年6月の完成を目指し再構築している、学園内基幹ネットワークの整備を進めた。今回の再構築により大学の南港学舎および本町新学舎を問わず基幹システムの利用が可能となる。今回導入するNAP（Network Access Protection）機能では教職員がクライアントPCを遊ぶことなく有線LANにより基幹ネットワークにログイン可能となるほか、持込みPCにおいてもインターネットに接続可能となり、平成24年度から導入するポータルシステム(Webシステム)での授業・学生支援を助長することが期待される。大学だけでなく高等学校・中学校のネットワークとも連携を図ることにより、学園としての包括的ネットワーク設計・整備も行ってきた。

(3) 施設の整備

本年度の施設設備の主な実施は以下の通りである。

- ①南港学舎では、施設整備中期改善計画にもとづき整備を実施している。
 - 講堂2Fホール調光設備更新
 - 図書館受電室高圧受電機器更新
 - 各棟室番号シール変更
 - 高木剪定・土留め
 - 体育館他 消火器更新
 - 各棟空調機器補修等

- ②本町学舎では、建物及び設備の老朽化が激しく、通常の使用レベルを維持することが当面の目標になり、設置後25年以上経過しているものが多く、年度計画をたて毎年更新を実施した。
 - 講堂パイプオルガン・ファン交換工事
 - 消防設備・誘導灯交換工事
 - 自動火災報知器・副受信機交換工事
 - 放送回路変更工事
 - B棟エレベーターかご室照明器具交換
 - A棟A31・32教室等エアコン交換工事
 - B棟B60教室壁紙剥がし及び塗装工事
 - ガス漏れ受信機交換工事
 - その他空調機交換工事等

■4.広報活動

平成23年度は、学校間競争が熾烈を極める中、大学においては生き残りをかけて策定した「将来構想」がスタートする年であった。広報部門においても、「将来構想」に基づく事業改革を図るために「相愛学

園広報委員会」を立ち上げ、広報に関する学内基盤の整備を行った。

本学園において分散する4つの広報担当部署（学園全体に関わる広報は総務課、大学における学生募集に関わる広報は入試課、高校・中学校における生徒募集に関わる広報は高中事務室、公式ホームページ等の運用は管財課）が、それぞれを行う広報活動の情報を集約し、学園としてより合理的な、また、より戦略的な広報活動するための企画・立案と、全学的な周知を図るための委員会の設置であり、人的ネットワークをさらに強固なものとした。

また、教職員の広報マインドの強化のために、広報戦略マップ及び広報事業マニュアルの作成に取り組んだ。多大な支出を要する広報事業を展開するにあたり、より効率的・有効的な広報の実施を心がけ、広告媒体及び委託業者の見直しに着手した。それにより本学がターゲットとする学生・生徒の獲得に向けた広報の戦略を再検討し、広告の掲出方法を見直すとともに、紙媒体を中心とした広報活動から、時代のニーズに即応したデジタル媒体への広報活動の移行に取り組んだ。

(1)メディアを通した積極的な情報の発信

社会的に影響力の大きい報道機関との協力関係を強化していくことは、本学のブランドイメージの向上と社会における認知度を高めるために必要なことである。平成23年度は、さまざまな広報事業の転換を通して、報道機関及び記者との接点を深めることとなり、新聞による各種記事の掲載を拡大することができた。「平成23年度相愛高等学校卒業式における昭和20年卒業生への証書授与ならびに交流会（古きを訪ねて新しきを知る）」もその一例で、新聞・テレビでも報じられ、インターネット検索サイトにおけるトップページにも大きく取り上げられた。

(2) 広報誌等の発行

学園広報誌「SOAI Familiar」を、年3回(新入生歓迎号・第19号4月22日・第20号12月15日)発行した。在学生・保護者・同窓生・全国浄土真宗本願寺派寺院・相愛学園関係企業等を対象に約4万5千部を配布し、本学の特徴・方向性を広く社会にアピールするとともに、進学相談会等のイベントや学校訪問等においても配布するなど、学生・生徒募集のために有効活用した。

学園広報誌の発行に関しても、従来の方からの変更を行った。前述の「相愛学園広報委員会」の設置により、これまで編集・発行を行ってきた「相愛学園広報誌編集委員会」がその役目を終え、広報に関する統合検討機関である「相愛学園広報委員会」がそれらの作業を引き継いだことから、学内外からの情報収集能力をより高めることができるようになった。

また、編集委託業者及び発送業者の見直しを行ったことにより、大幅なコスト削減を行うことができた。

また、教職員を対象とした学内報「當相敬愛」は、さらなる教職員の一体化を図るために発行回数を増加し、6回(4/12、5/16、6/17、9/20、12/19、3/15)の発行とした。

(3) 広告の掲出

平成23年度は、本学の重点エリアと考える大阪市営地下鉄主要駅(梅田駅・なんば駅・心斎橋駅・天王寺駅など7駅)を中心に、学内の各種イベント・公開講座・コンサート等の駅貼り広告の掲出を年間を通じて行い、交通機関を利用する幅広い層へ本学の教育活動に対する理解と認知度の向上に努めた。一方、オープンキャンパス等の学生・生徒募集イベント開催の告知として、大阪市営地下鉄沿線、JR沿線の車内吊り広告の掲出を行ったほか、入試時期においては、本学キャンパスの所在地周辺をターゲットとして、新聞折り込み広告等を行うなど、期間集中的な広報も実施した。

(4) 広報活動としての他機関との協力イベント開催

浄土真宗本願寺派本願寺津村別院との連携で実施している「北御堂コンサート」(月1回開催)は、参拝者並びにビジネスマンを中心とした来場者から好評を得、本学学生の特色ある活動をアピールすることができた。

また、本学が所在する大阪市の中心地である御堂筋の活性化を目的として設立されている、「御堂筋まちづくりネットワーク」のイベント、「スプリングギャラリー」「オタムギャラリー」での演奏協力を行った。周辺企業に対して本学のイメージアップが図られただけでなく、学内イベント開催時には、同ネットワーク会員企業において広告チラシ配布や掲示を仰ぐことができた。

II.事業報告の概要

●大 学

■1.教育に関する事項

(1) 音楽学部

音楽学部では、平成23年度も多方面にわたり積極的な活動を行っ

た。

①コンサート関連事業

本学主催のコンサート関連行事については、学内外合わせてその数例年30回(年間)を超えている。学外ではザ・シンフォニーホール、いずみホール、ザ・フェニックスホールなど関西圏の主要なホールにて「相愛オーケストラ第56回定期演奏会」、「同第57回定期演奏会(オペラ公演)」、「相愛ウィンドオーケストラ第33回定期演奏会」、「専攻科修了演奏会」、「卒業演奏会」等、また学内では「教員によるSOAI Concerto」、「相愛ウィンドオーケストラポップコンサート」、「オペラ試演会」、「作曲作品発表会」、各種「アンサンブル演奏会」等が行なわれ、いずれも好評評に終了した。特に、管弦打と声楽共同で取り組んだオペラ「フィガロの結婚」公演の成功は、今後の学部事業の方向性を示した。

②公開レッスン・公開講座

外部招聘の有力講師や客員教授による公開レッスンや公開講座を開催した。

ピアノでは練木繁夫客員教授及びディーナ・ヨッフム教授による公開レッスン。丁寧でしかもレベルの高いレッスンに学生たちは感銘を受けていた。また、調律の大谷台三氏によるピアノの構造の説明に、学生たちは驚き、改めて楽器に対する興味を深めた。管楽器ではケネス・チェ氏(サクソフォン)を招聘。高度な音楽性と超絶技巧で、サクソフォンの新しい世界観を我々に残した。

声楽では指揮者バオロ・ペッロニ二氏を招聘。曲のテンポやイタリア語のアクセント、更にはオペラの役柄等を踏まえたレッスンは、興味深い内容だった。回数を重ねたハールサルでは、音楽専攻生にとどまらず、オーケストラの学生にとっても、大変有意義なものとなった。

③国際交流事業

例年通り、ミラノのヴェルディ音楽院、ワルシャワのシヨノン音楽大学での夏期講習を実施。ポーランドよりトマシツク教授(ヴァイオリン)を招聘して、公開レッスンとリサイタルを開催。また、大阪・ミラノ姉妹都市提携30周年事業として、オペラ「フィガロの結婚」を大阪国際交流センターホールで開催した。年度末には、上海師範大学との学術交流協定が締結された。今後、アジアの国々との交流も大いに進めたい。

④入試広報事業

昨年度に続き、音楽学部同窓会「沙羅の木会」との共催により「音楽学部入試説明会～沙羅の木会拠点説明会～」を本町学舎、和歌山にて開催。和歌山では本学部管打楽器教員による吹奏楽クリニックを同時開催。滋賀県愛知川でも管打楽器講習会(クリニック)を実施した。また広報活動の拡充として、関ヤマミュージック大阪と堺黒崎/黒崎楽器の多大なる協力のもと、大阪の千里中央、神戸、堺、徳島の4ヶ所において「コンサート/大学案内・入試説明会/体験レッスン」を開催した。今年度もこれらを継続し、また可能な限り様々な広報手段を検討したい。

⑤地域貢献事業

「大阪府立急性期・総合医療センター」との提携による「連携コンサート」がすでに定期的に行なわれているが、学生と卒業生を派遣した。また、大学コンソシアム大阪「大阪中学生サマーセミナー」推進協議会の開催するセミナーに「金管楽器及び打楽器アンサンブルクリニック」を内容としている科目を開講した。

昨年度より「大阪市立大学医学部附属病院」との連携コンサートも始まり、年度末には病院と本学との間に正式な調印が交わされた。加療中の患者さんやその家族の方々、医療関係のスタッフの方々への癒しと励ましとなるべく、今後とも高い音楽を提供していく所存である。地域社会の発展に貢献する活動は、極めて意義深い。

⑥音楽マネジメント学科の事業

新設初年度であったが学科の大きな特色である実践教育では4月早々の「清塚信也コンサート」に始まり、地域活性化の文化事業「咲くやこの花芸術祭」「堺祭アメリニティ」「にぎわいスクエア道頓堀ウォーク」などに学生が企画運営に参加し、高い評価を受ける。又、吉本興業とのイベント「僕らのみつけたシゴト」は、学生が主体となって映像制作やステージの企画・演出を行い成功させた。学生募集活動では学生と一緒に出身高校を訪問しAO入試・ミニ講義など活動を広げたが、前年度の増進の結果になり課題を残した。

今後は完成した「本町校舎」での入試イベントを高校訪問・オープンキャンパスの活動と併せ学科あげて注力する。教員3名が本年より創始された「重点研究プロジェクト」に応募し選定された初年度活動を開始している。

(2) 人文学部

昨年の東日本大震災は、多くの尊い人命を奪うとともに地域の社

会や産業を破壊し、また原発事故による放射能汚染は広範囲に及び深刻化しつつある。「未曾有」の出来事は日本の社会のあり方を変えようとしているが、そのような中で人文科学はどのような役割を果たせるのかを問うシボジウム「人文科学の挑戦」を2回開催し、「原発と仏教」と題する公開集中講義を3日間にわたり実施した。また、本学部主催で全学の学生を募り、被災地でのボランティア活動に参加できたことは、「行動する人文科学」を内外に印象づける結果となった。

学生に対しては、複雑化する社会を生き抜く力を修養するため、ゼミナール等を通して一人一人に見合った教育を実践し、また上記の学部行事などにスタッフとして学生を採用し社会性を養う一助とした。

①日本文化学科

奈良の古寺社や史跡の实地踏査を行い、重層する日本文化に直接触れる機会とした。また、本学所蔵の「春曙文庫」の閲覧会を開き、古典理解のための素養を培った。

②仏教文化学科

「仏教文化学科開設シボジウム」「東日本大震災復興ボランティア」「東日本大震災追悼法要」「幼児向け防災訓練キャラバン隊」といった取り組みを行った。

③文化交流学科

世界の文化への理解を深め複眼的知識を養うと同時に、外国語運用能力の向上を図る教育を実施した。また、留学生との交流や異文化出身の子ども対象のボランティア活動をサポートした。

④英米文化学科

英語圏の文化についての教育、英語圏や日本の文化的背景にも留意した英語教育を行った。さらに、ビジネスのグローバル化に対応するため、TOEIC等の資格試験受験を支援した。

⑤人間心理学科

心理学と人間学の視点から、現代社会に生きる人間の心の問題に対する深い理解と洞察力を養うための授業を行い、特に演習及び実習科目ではそれらのための実践的な事業を行った。

⑥社会デザイン学科

多面的な視点から現代社会にアプローチする手法や、「社会調査」及び「情報処理」の力を身に付けるための教育を実践した。とくに、社会調査のためのフィールド・ワークに積極的に取り組んだ。

(3) 人間発達学部

人間発達学部では、子ども発達学科および発達栄養学科ともに専門的知識に基づき対人支援実習学生に育成することをめざした教育内容・方法の研究開発推進、それぞれの学科が養成する資格・免許取得に直結する専門教育内容の充実を図り、学生の就業力支援、キャリア形成支援をめざして、以下の事業を実施した。

①子ども発達学科

子ども発達学科では、子どもの発達援助に必要な力を実践的に養成する学習環境づくりを目的として、学生が主体的・実践的に学べる場の確保と、学生の就業力支援を同時進行で推進し、その展開にあたっては社会貢献につながるようなプロデュースをめざし、主に以下の取り組みを行った。

●専門職育成のためのスキルアップ支援の充実と発展

- 現場で求められる実践力および応用力の育成も含めて、Pから学ぶことを目的に平成22年度に実施した「おもしろスキルアップ講座」を発展させ実施した。具体的には、学ぶ分野や学ぶ学生の対象の幅をひろげ、学習環境として充実させた。
 - さらに、実施にあたっては、現場で働く卒業生や地域の保育・教職従事者も対象とし、リカレント教育の展開とタイアップさせた。
 - また、入学前教育の一環として実施している「ピアノ入門講座」を入学前からのスキルアップへの取り組みとして期間を延長し充実させた。

●保育・教育現場への就業に直結した学習支援の実施

学科の専任教員全員体制でCS2(採用試験対策)室を開設し、会議室を学習室にあて昼休みや学生の空きコマの時間を活用した学習支援プログラムを展開した。さらに、前年度に続き、教員採用試験対策や、保育・教育現場への就職を支援するため現場で働く卒業生に協力を求め、「卒業生が語る会」を実施した。

●大学における子育て文化継承支援活動の実施

平成18年度から4年間取り組んでいる子育て支援講座や平成20年から3年間実施している「よつばのクローバー」を継続、発展させ、文化継承と交流(世代間交流)をキーワードに、子ども・保護者の発達支援と同時に学生の就業力支援につながるよう、プ

ログラムを充実させ実施した。

●学生の出前実践活動の推進

実践力やコミュニケーション力の育成と社会貢献をめざし、学生が演奏活動や保育活動を地域の保育施設を訪問して実践する活動を積極的に推進した。

②発達栄養学科

発達栄養学科では、身体や栄養に関する知識を基礎として人とのコミュニケーション能力と実践力を備え、食と健康に関わるあらゆる場で活躍できる管理栄養士の育成を目指し、次のような取り組みを行った。

●管理栄養士国家試験受験支援の充実

1、2、3回生に対してはそれぞれ3回の模擬試験を実施した。4回生に対しては、全教員による年間を通した専門分野別対策講座と夏休期中における集中講座、外部講師による不得意科目の特別講義などを実施した。学生が自らの学習の成果や実力を把握できるように8回の学内模擬試験と7回の外部模擬試験を導入した。国試対策の環境整備として、発達栄養学科合同研究室を管理栄養士国家試験対策用の部屋として開放し、管理栄養士国家試験合格者の卒業生を常駐させ、国試対策の合理化と、学生の自己評価の迅速性を強化した。保護者に対しては、9月と12月に模擬試験の成績を提示し、12月には保護者会を開催して受験への協力を依頼した。

●臨地実習支援の充実

臨地実習の事前指導のひとつに位置付けて、専門家によるマナー体得講座を実施し、実習に必要な社会性を身につけさせるように努めた。

●コミュニケーション能力と実践力の育成支援

食・健康に対する好奇心や探究心、人とのコミュニケーション能力と実践力を育成し、就業力の向上を図るよう努めた。具体的には、近畿農政局大阪農政事務所大阪地域センター、大阪府、大阪市、豊中市、食品企業等および地域や他大学との連携・協働による「マジコはん推進イベント」「お弁当コンテスト」「食育推進キャンペーン」「大阪ヘルスジャンボリー」「住之江区健康展」、「糖尿病予防セミナー」「糖尿病予防教室」「ふれあい病院探検隊」「小学校での食育授業」「食と運動・健康フェスタ」を実施した。また、大阪府とカゴメ等食品企業との協力のもとで「産官学食育実践演習」の学外授業および食品企業等での「インターンシップ実習」を実施した。

(4) 共通教育センター

基礎・共通科目、教職科目、図書館司書・学校図書館司書科目等を提供し、初年次教育やキャリア形成教育の拡充にも努めた。また、学修支援室を運営して基礎学力底上げや就職支援を行った。さらに、FD委員会と連携してFD活動を推進するとともに、非常勤講師との様々な連絡・調整を行った。具体的には以下のように事業を展開した。

①新カリキュラムの確保と再検討

基礎・共通科目の新カリキュラムを実施した。しかし、履修者が少ないため非開講にせざるをえない科目もあった。このように、大学の規模に比べて科目数が多すぎることを示されたので、カリキュラムの見直しを開始した。

②教職課程

紙ベースの履修カルテを作成して、対象学生への配布、記入指導等を行うと同時に、教職課程担当教員による観点別評価の記録を開始した。履修カルテは、各学生に保管させ、指定日に提出することを義務づけた。教員による評価は担当教員が保管した。

③司書課程

来年度からは文部科学省令に基づく学部教育課程に改められて全国一斉に多くの新科目がスタートするため、その準備作業を行った。また、3か年間は旧課程受講者のための科目読み替え措置が実施されるので、該当学生に対して新旧科目間の読み替えの説明を行った。

④非常勤講師との連絡・調整

前年度の懇談会で寄せられた質問や要望をもとに、事務局への働きかけや回答書の配布を行った。また、今年度末にも懇談会を開催し、非常勤講師諸氏との意見交換を行った。

⑤FD活動

FD委員会と協力して、3回の研修会、授業見学、授業評価アンケートを実施した。また、研修会や授業見学の際に寄せられた参加者の

意見や授業アンケートの分析結果を報告書にまとめた。

⑥初年次教育、キャリア形成教育

初年次教育の中心をなす「大学生のための日本語入門」を統一したシラバスで開講し、期間終了後に検討会を開いて授業の改善を図った。また、これまで課外で行われてきたキャリア教育を正規科目(キャリアデザイン論等)として設定した。

⑦学修支援室

センター所属の教員を担当者として学修支援室を発足させた。また、教育改革経費を受けて、参考図書等を整備し、この種の活動に実績のある大学を訪問して情報を収集した。それに基づき、運営規程の制定に着手した。

(5) 教育改革経費

本経費は、「教育改革経費は本学の教育改革のために、全学もしくは各局部等で実施を検討、又は実施中の特色ある事業に対して支援を行うことを目的とする。」(相愛大学教育改革経費に関する規程第2条)ものとして、本年度にはじめて措置されたものである。

対象事業は「(1)文部科学省が実施する教育にかかると支援プログラム等に関する事業、(2)本学が全学もしくは各局部等で実施する教育改革に関する特色ある事業、(3)その他、教育推進本部が必要と認めた事業」(同第3条)である。

本年度は、規程に従い、5月に公募を行い、応募12事業のうち、厳正な審査によって、以下の事業を採択し、9月より実施した。

- ・「ポータル活用による学生支援体制の基盤構築」(情報システム運用委員会)
- ・「教職員による能動的キャリア支援体制の確立」(就職委員会)
- ・「プロフェッショナルトレーニング」(音楽学部演奏委員会)
- ・「ポータルの活用による授業の出入管理」(教務委員会)
- ・「学修支援室の整備拡充による学修支援の強化」(共通教育センター)
- ・「学外実習・復興ボランティア」(人文学部)
- ・「能動的学生支援プログラムの試験的導入」(教務委員会)
- ・「入口から出口まで面倒見の良い教育体制構築」(人間発達学部子ども発達学科)

■2.研究に関する事項

研究推進本部は、本学を特徴づける研究を推進・構想する優れたグループに対し、大学として重点的に支援するために設置されている。平成22年度には研究助成に関わる諸規程を整備、それに基づき、今年度には重点研究の公募と審査を行った。

応募件数&、重点研究Aが4件、重点研究Bが4件であった。審査を経て採択された研究テーマは、重点研究A「インターネットが音楽と芸術活動に及ぼす変革」「相愛大学のための情報環境と情報教育」、重点研究B「食育SATシステムを利用した食事指導システム構築と地域連携ネットワーク拠点構築に関する調査研究」「わが国の学校教育における芸術体験事業としてのオーケストラプログラムの今日的課題の考察」であり、支援事業が本格的に開始した。ほかに、研究成果刊行助成2件の応募もあったが、今年度は採択が見送られた。

外部資金の積極的な獲得を求めするために、研究支援活動の一環として、「科学研究費申請」に向けてと題したセミナーを開催し、すべての教員に科学研究費の申請を促した。結果、科学研究費の申請・受理件数が増加している。平成23年度は24件申請され、5件(人間発達学部4件、共通教育センター1件)の採択。また、平成24年度採択に向けての申請件数は30件で、前年度より増加している。加えて、民間企業からの委託研究が2件(「気分による敵立検査機能を有した敵立データベースの作成」「若年健常女性に対する無塩発酵大豆テンペの整腸作用の検討」)で合計1,470,000円、本学における教育研究の奨励を目的とした教育研究奨励金附帯金が3件で合計160,000円、と外部資金の獲得が増加した。本学を特色づけるさまざまな学問分野をまたがっての学際領域の研究を推進していけるように、学部枠を超えた柔軟で開放的なプロジェクト型の研究推進組織の設置を本年度検討し、平成24年4月に「相愛大学総合研究センター」を発足させることを決定した。これに伴い、従来の音楽研究所、人文科学研究所、人間発達研究所の3研究所を今年度末をもって廃止することも併せて決定している。

相愛大学「人を対象とする研究」倫理規準、相愛大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会規程の整備を受けて、本年度には研究倫理審査が3件申請され、すべての審査を終了した。今後、全学における研究推進方策をさらに検討していくとともに、研究・教育面の最低限の基盤整備に努めたい。

■3.社会貢献に関する事項

(1) 地域貢献の推進体制

地域連携の基本方針を検討し、施策を推進するために、「相愛大学地域連携推進本部規程」を制定し、地域連携推進本部の下、地域社会との連携に関すること、産業界との連携及び地域経済への貢献に関すること等の基本方針を審議し、決定するための体制を整えた。

(2) 地域貢献の活性化

既に連携を行っている地方公共団体等とは、地域社会のニーズに応じた事業の展開を実施するとともに、芸術・文化の振興を図り、専門的な研究成果を市民に還元するためにエクステンションプログラム等の検討を行い、相愛大学の学術文化が根づいたまちづくりを目指した。具体的な取り組みは、各学部・共通教育センターで実施する公開講座や開設する授業科目の一部開放などである。協定を結んでいる特につながらの深い公共団体や事業団とは以下のような協力事業を実施した。

①平成22年度に包括連携協定を結んでいる「大阪市」とは、既に例年行っている各種事業への積極的な展開を行った。実施事業は、大阪市/すぎやねん大阪市民運動推進委員会主催による「大阪ヘルスジャンボリー2011」への参加、住之江区民ホールで開催された「みんなの健康展2011」への学生・教員の派遣等である。この他にも、大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会（連絡先:大阪市危機管理室）による「帰宅困難者対策訓練」への参加、「大阪市における防災対策について」（大阪市危機管理室）の講演も実施した。

②平成21年度に相互連携に関する協定を結んでいる「大阪府立急性期・総合医療センター」との事業内容は、約2カ月に1回行っている「音楽コンサート」への音楽学部学生の派遣、緩和ケアに関するシンポジウム「生と死を今考える」の講演者及びパネリストへの人文学部教員の派遣、人間発達学部発達栄養学部の教員と学生との連携による一般市民を対象とした「糖尿病セミナー」の共催、人間発達学部子ども発達学科の学生を小児病棟へ派遣する等、数々の連携事業を行った。

③大学コンソーシアム大阪が設置する各種委員会に参加し、コンソーシアムが実施する連携事業などにも積極的に取り組んだ。大学コンソーシアム大阪等が組織する大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する「大阪中学生サマーセミナー」において「金管楽器及び打楽器アンサンブルクリニック」を開設した他、幼・小・中・高・支援学校の教員を対象とした、教職員自主研修支援「大学・専修学校等オープン講座」（大阪府教育センター）にも、5講座を開設した。また、大学コンソーシアム大阪の大学連携による「食と健康フェスタ」にも参加した。

④産学官連携活動として、人間発達学部は大阪府及びイズミヤ主催の「野菜パル」（愛情お弁当コンテスト）の企画・審査等に協力し、多数の学生が応募した。これらの事業に参加した学生は、自分自身の手で社会を積極的にノックする大切さ学び、自分で課題を見つけ、分析し、解決し、新しい価値を創造できるマネジメント能力を大きく伸ばした。また、多様な学生達の学習意欲を喚起させるには、学生を大学の外に出し社会の一員としての自覚を持たせることが有効であると考え、建学の精神を生かした積極的な学生ボランティア活動の推進のため、日常的に活動に参加できるよう、興味や関心に応じて身近に参加できる種々の活動機会を用意した。各学部・共通教育センターで実施する事業のほか、全学的な実施事業は、大阪マラソンの学生ボランティアの派遣（30名）や御堂筋Kappoへのブースの出展等である。さらに、学内施設の学外利用について、本学図書館が所蔵する学術資料を、明確な学習・研究テーマを持った地域の一般市民に提供する「図書館一般公開制度」を実施しているが、その他にも、住之江区での生涯学習の支援サービスや、青少年の育成推進の一環として、本学南港ホールを利用したの「住之江の第九」や、「さざびー音楽祭」（区内の中学校の音楽関係クラブ（吹奏楽等）等による音楽祭）といった演奏会を行った。

今後とも、地域の課題をくみ上げ、地域社会との連携を一層強化し、本学の地域貢献の進むべき方向を探りたい。

■4.自己点検に関する事項

本年度の自己点検に関する実施事業は、主として機関別自己点検・評価と教育改善にかかると自己点検・評価に大別できる。本学の自己点検・評価の体制について、「相愛大学自己点検・評価に関する規程」を改訂し（12月15日評議会決定）、本学の自己点検・評価の責任体制を明確化するとともに、本組織に機動的機能を付し、その点検・評価の結果を改善に直結せしめることとした。機関別自己点検・評価に関しては、6月末に、保留となっている認証

評価について、大学基準協会に「改善報告書」を提出し、10月24日、基準協会のヒアリングを学長以下5名が受けた。その結果、本学は大学基準協会の大学基準に適合していると認定された。

教育改善にかかる自己点検・評価活動では、FD委員会が2010年度『《学生による授業評価アンケート》結果報告書』（全274頁）を刊行した。本書は、前年度前期末（一部後期中項）授業の大半についておこなった十数項目にわたる授業のアンケート結果とその分析および結果に関する教員各自の意見と改善方をまとめたものである。

引き続き、学生による授業評価アンケートを主として前期授業（一部後期授業）について実施し、年度末にかけて、その結果の分析を委員会で行い、報告書を刊行することとした。なお、教員の教育力向上のためのFD活動の一環として、前年度に続き、教員相互の公開授業を実施した。参加教員数は必ずしも多くなかったが、有意義であったと判断している。

■5.国際交流

教育の国際化という世界の流れに沿い、文科省の国際交流を推進する方針に基づいて、本学の国際交流部は昨年を展開されてきた事業をさらに拡大し、以下の事業を推し進めてきた。

(1) 提携大学の拡大

①中国四川外语学院成都学院と提携関係を結ぶため、代表団が6月に当大学を訪問、交流協定の調印を行った。

②9月、ネパールのルンビニ仏教大学が来学し、提携、仏教文化学科の学生たちと交流のひとときをもった。

③3月、代表団が中国上海師範音楽学院を訪問し、交流協定調印式を行い、また音楽学部の代表が学生らと交流、現場の音楽演奏指導に力を注いだ。

(2) 留学生の派遣及び受け入れ

昨年の留学生募集に続いて、提携大学を訪問。留学生募集試験を行い、78名の留学生の入学を実現した。

(3) 教員の交流

①音楽学部では、10月に、S.トマジック客員教授の公開レッスンとヴァイオリンリサイタルが行われた。

②人文学部では、10月から半年間、遼寧大学から1名の外国人研究員を受け入れ、研究発表等を行った。

③国際間の学術交流を深めるために、提携校の中国東北大学、遼寧大学の要請で、国際交流部長が3月に両大学を訪問し、講演会を行った。また、今秋に、日中国交回復40周年を記念して、中国東北大学と大型国際シンポジウムの共催及び当大学音楽芸術学院の民族音楽団の大阪公演の企画・準備中である。

④3月、大連大学では、本学の代表団のために開催された音楽演奏会で、音楽学部の代表団の教授も演奏を披露し、また今後の音楽交流や留学生の派遣について相談した。また、国際交流部長が当大学で「日本上代文学と中国古典」の講演会を行った。

(4)海外研修プログラム

学生（一部卒業生も含む）が外国の高等機関で学ぶ講習を今年度も実施した。
7月31日～8月22日　ハワイ大学夏期英語研修
8月4日～24日　　シヨノン音楽大学夏期講習

(5) 学生の交流

①11月、イタリア、ミラノ市ダルヴェルメ劇場においてヴァイオリン専攻の学生が演奏し、喝采を受けた。

②2月、相愛大学オペラ公演において、ミラノ市ヴェルディ音楽院より声楽家テノールのドロンツォン・パツァジョン氏が出演し、その演技力は教員・学生に大いに刺激になった。また、3月には、相愛オーケストラ定期演奏会にも出演し、教員・団員・大阪市関係者との友好的な交流ができた。

■6.キャリア支援・就職支援

『就職氷河期』と言われスタートした今年度の就職活動は、倫理憲章の改定により、各就職情報サイトの公開を例年の10月スタートを12月に遅らせるなど学生にとって厳しい就職環境であった。その一方で文部科学省の設置基準の改正により、本学においてもキャリア関連科目の単位数が始まり、学生支援センターでは低学年時よりのキャリアガイダンスや基礎学力講座を開催し、1・2回生のキャリア支援段階から、3・4回生時の就職支援が円滑に進むような行事・講座を実施した。

した。

(1) キャリア支援

平成23年度より、文部科学省の大学設置基準の改正に伴い、低学年時からのキャリア教育の単位数が実施され、学生支援センター事務室では授業内でのキャリア教育との有機的な連携をはかるため、今年度より1回生・2回生時にキャリアガイダンスと基礎学力養成講座を実施し、就職活動に入る前の段階で、しっかりとした就業意識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、基礎学力を養成できるように努めた。2回生には、キャリアデザイン講座で自分の将来を考える事とビジネスマナーを学ばせ、2回生以上を対象とした就活トライアルセミナーでは職業意識や仕事研究を学び、大学コンソーシアム大阪や就職情報誌の夏季インターンシップ、ボランティア活動などの学外活動へ積極的に参加を促し、円滑に就職活動に入れるよう支援した。

今年度大学コンソーシアム大阪のインターンシップには、企業7名、プロジェクト型2名が参加した。また、「相愛大学将来構想」の就業支援に関する問題点に対応するため、低学年時からのキャリア支援強化を実施できるよう教育改革経費を申請し、1回生全員に社会人キャリアアセスメントを受検させた。客観的に自分の強みや弱みを自覚させ、今後の大学生活での目標・目的をもたせるとともに、2回生時に再度受験させることで、社会人基礎力の伸び幅を検証したい。

また、この結果を各学部・学科にもフィードバックし、各学部の特色を活かしたキャリア支援をすすめている。キャリア支援は、全学体制で実施するものであり、教職員の就業に対する理解と連携が必須であるため、外部講師を招聘して『教職員対象キャリア支援研修会』を実施した。

(2) 就職支援・就職状況

就職活動対策として3回生の5月より翌年の2月まで、自己分析、企業研究、筆記試験対策、面接試験対策の4つを柱として、キャンパスタイムの時間帯を中心に以下の9つの支援行事を行った。

①就職ガイダンス②就職適性検査③自己分析講座④筆記試験対策講座⑤業界研究⑥内定者体験発表会⑦面接対策講座⑧グループ面接・ディスカッション⑨個人面談である。その他、履歴書・エントリーシートの書き方等の個別指導を行った。4回生については、就職活動中も、フォロアアップ講座、面接練習等を予約制で随時行った。また、就職支援の一環として、マイクロソフト2007MOSライセンス講座を実施し、夏期WORD講座受講者が31名でMOS-WORD試験合格率84%、春期EXCEL受講者が24名でMOS-EXCEL試験の合格率は90%であった。

また、中国からの留学生（編入3・4回生）のための就職ガイダンスも実施した。厳しい就職環境の中、政府の対策として開設された新卒応援ハローワーク大阪学生職業センターの大学担当ジョブサポーターとも連携しながら出張職業紹介・就職相談会を学内で実施し、在学生・卒業生にも利用を奨励するとともに連携を強化した。就職活動における保護者の協力が近年大変重要であり、3回生の保護者に対して保護者向けフリーフレットと就職行事予定（NEWLIFE2011）を郵送し、協力をお願いした。学生にリアルタイムで求人情報を配信できるようになったが、やはり就職活動はアナログな部分も重要であり、個人面談・個人指導に重点をおき、〈面倒見の良い学生支援センター事務室〉を目指している。

本学における求人数件は、昨年度1234件に対して1594件と360件増であったが、その多くは幼稚園・保育士・介護職（教育・学習支援・福祉）の求人増で、他業種においては、昨年並みまたは減少している。就職希望者は、ポータルサイトの求人システムと就職情報サイトを利用し活動した。就職状況については昨年度の就職率83％に対して87％と4％増の結果となった。

■7.学生支援に関する事項

学生生活支援、課外活動支援事業及び経済的支援事業を中心に、学生生活が充実するように努めた。経済支援では、本学独自の奨学金貸与金や珠光会奨学金の給付をはじめ、日本学生支援機構奨学金を中心に支援を行った。

学生生活支援では、保健管理センターに設置した「学生相談室」を通じて、学生の様々な悩みについて解決を図る支援を行うと共に、薬物への注意喚起の啓蒙活動を実施した。課外活動支援では、学生会諸団体やクラブ関係者と連携しながら多面的な支援を実施した。

(1) 学生自治会

学生の自治を尊重しつつ、大学が学生会の資金を管理し適正な助言を行い、自費の適正かつ安全な運用に努めた。また学生全体のリーダーとしての自覚と責任を身に付けさせ、教職員との垣根を低くし相談しやすい環境整備を模索している。

(2) 課外教育活動

課外教育活動は、学生会本部を中心に体育会15団体に215名、文化会9団体に210名が参加し、それぞれに指導と支援を行った。

また、リーダーズキャンプを夏期は神戸市営しあわせの村で実施し学生41名、教職員8名が参加し2泊3日で、春期は学内で学生59名、教職員9名が参加しリーダーとしての研修を実施した。大学祭は、「愛警察〜ここからつながろう〜」と題し10月22・23日で実施、約2000人が来場した。

(3) 安全なキャンパスライフを過ごすために

ドラッグ、悪徳商法など学生がトラブルに巻き込まれないように、新入生対象に「新入生へのメッセージ2011年度版」を配布するとともに、住之江警察署生活安全課から講師を招き、「薬物犯罪を中心に大学生（若者）を取巻く犯罪やトラブル全般の現況と抑止について」と題して講演を実施した。

(4) 学生表彰

学生の諸活動に対する適正な評価を行い、ユニバーシアード日本代表選手に学長賞1名をはじめ、学長奨励賞1名、学生部長賞12名、本願寺賞3名の表彰を行った。

(5) 福利厚生

①奨学金制度

経済的な事由により学業を継続していくことが困難な学生の為に、日本学生支援機構をはじめ、地方公共団体奨学金、相愛学園奨学金と金など様々なものを紹介し支援している。日本学生支援機構奨学金525名をはじめ貸与型683名、音楽学部52.4%、人文学部39.2%、人間発達学部49.8%が、給付型の38名を合わせると計721名（全体の49%）が利用している。

②下宿紹介
業務提携している学生情報センター共同で、「安全・快適」をキーワードに入試広報に資するパンフレットを作成。新入生をはじめ、在学生、特に女子学生や保護者から安心して入居できたと好評を博した。

③学研災・学研協保険の加入とスポーツ安全保険
保護者会からの援助により、学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険及びスポーツ安全保険に加入し、学生やクラブ員のケガに対応し、支援した。

④学生食堂と購買部

学生食堂や購買部の業者に対して、食の安全に留意しつつ、適正な価格でニーズにあった食品及び商品を提供するよう各々の業者へ要請した。

(6) 建学の精神の具現化

仏生会・護国会・成道会・御正忌報恩講の他、定例礼拝を3回、音楽法要作法で実施し、各法要での講演は「法輪第23号」としてまとめ出版した。

毎週木曜日には礼拝室礼拝を、新入生本山参拝・卒業生別院参拝・帰敬式・成人の集いも実施した。市民対象の市民仏教講座を毎月土曜日に毎月10回開催した。

また、相愛大学版「宗教教育と仏教法要に関する手引き」を作成し、全教職員に配布した。

(7) 学生相談

学生相談室では、臨床心理士によるカウンセリングを受け付け、年間来室者のべ約450人を超え、新規来室者も約60人を超えている。また1回カンファレンスを開催し、保健管理センターとして情報提供や連携の図り方の確認、支援の在り方や面接業務の取り組み方についても話し合いを重ねている。

(8) 健康管理

入学時の「健康調査票」及び年度当初の「健康診断」をベースに、学生の健康管理に努め、年間9回の「健康相談日」に校医が直接学生の健康上の不安や悩みに対応している。また保健室来室者数の増加により、ベッド数を増やした。2011年度の保健室利用状況は学生968名、教職員77名、計1045名となっている。新型インフルエンザや麻疹などの感染症には、常に対応策とマニュアルの見直しを行い、抑止の啓発活動も合わせて実施している。

■8.図書に関する事項

(1) 教育・研究支援

図書館では、平成23年度も例年通り新入生を対象に基本的な図書館利用のガイダンスを行った。人間発達学部では、『バーシクセミナー』というカリキュラムの一環として図書館での文献調査演習が行われ、図書館もこれに対応して、OPACの利用法や、データベースを利用した文献調査法を紹介するなど図書館利用教育に努めた。

また、貴重図書資料（春曙文庫）の公開については、春季・秋季に貴重資料展を開催する他、オープンキャンパスや日本文化学科の入学

前教育の際にも開室し、本学独自の資料群を対外的にアピールした。

(2) 図書館利用支援

平成18年度以来、開館日数の増加、開館時間の延長を実施し、利用者の利便性の向上を積極的に行ってきた。平成23年度の年間の利用者数（入館者数）は、学生数の減少に比例して、前年度比1割減になっているが、開館延長時の利用者数は、前年度比1割を増加した。また、平成22年度に引き続き、図書館主催のOPAC講習会、データベース講習会を実施した。中国人留学生を対象にした利用講習会では、情報処理演習室を利用し、演習問題を取り入れながら個別指導を行った。

(3) 図書館資料の充実

本学図書館は、学習図書館としての機能を重視し、主に学習用コレクションの構築に努めている。シラバス記載の資料をはじめ、各学部のカリキュラムに添った資料を中心に収集する他、新学科関連の資料についても、設置計画に基づき資料収集を着実に履行した。

(4) その他

近隣地域住民などを対象にした図書館一般公開制度を平成22年10月より実施しているが、学内外で広報活動を展開した結果、登録利用者数は、前年度より増加した。

また、図書館公開講座を開催し、地域に開かれた図書館として地域社会の活性化に貢献した。

■9.学生募集に関する事項

長引く経済不況が入学動向（特に私学情勢）に大きく影響を与え、それ以上に本学の2012年度学生募集は受験者・入学者数ともに厳しい状況であった。

(1)広報用冊子の作成について「2012年度版大学案内」はほぼ予定通りに完成したが、募集冊子については新規入試制度の導入などにより完成が大幅に遅れることとなった。入試制度については回数や種類なども増やし、受験出来る機会を増加させたが、結果として受験者を分散させたような形となった。ただ十分告知の出来なかった入試制度（沙龍の木会特別推薦や寺院特別推薦）などもあり、より一層の広報活動を行うことので今後定着すれば相当数の応募が期待出来ると考えられる。

(2)学生募集結果について、志願者数は、音楽学部137名(対前年比113%)人文学部58名(対前年比49%)人間発達学部175名(対前年比83%)音楽専攻科17名(対前年比77%)、入学者数は、音楽学部102名(対前年比96%)人文学部42名(対前年比105%)人間発達学部116名(対前年比83%)音楽専攻科14名(対前年比74%)であった。志願者数では音楽学部を除き全て減員となり結果として入学者数も減少した。人文学部については本年度より実施した留学生入試(既に日本に滞在している学生対象)により若干入学者増となった。

(3)入学志願者募集活動について、オープンキャンパスは昨年7回実施（一昨年度末3月実施を含む）したが参加者の合計は609名(対前年比85%)で、この結果が入学者の減少にそのままつながる形となった。高校訪問や模擬授業、音楽学部の沙龍の木会会員への説明会、楽器店での相談会などの広報活動も積極的に行なったが、まだまだ高校生層への認知度が少ないのでより一層の広報活動が必要である。

教員、入試課職員で近畿地区の高等学校、日本語学校、予備校・塾や指定校などをべ約750校(昨年625校)訪問した。広報媒体として受験雑誌だけでなく、公共看板(電子媒体)や高校生向きフリーペーパーなども活用し広報活動を行った。

●高等学校・中学校

■1.高等学校・中学校

平成23年度相愛高等学校・中学校における教育活動に関する主な取り組みについて報告する。

(1) 生徒の学力確保、学力向上

①授業日数の確保と曜日の平準化

授業時間数の確保のために、平成21年度より学期末考査の後の家庭学習日を見直し、従来以上に時間数の確保ができた。保護者からは歓迎されている反面、生徒から定期考査(期末、学年末)明けの終業式までの授業に対して休養を求める声もあり翌日一日の家庭学習日を設けた。また、法要や年間行事の関係により曜日に偏りがあるため、曜日毎の授業日数を勘案し調整した。

②シラバスの活用

3年前から各教科、科目のシラバスを導入し、校時として定着した。教員、生徒、保護者が十分に活用できるよう促す。

③特進コース独自授業の効率化

高校特進コースでは週に3日実施されている第7時限目の授業を今年度は4日に増やし、生徒の受験形態並びに学力に応じた形で実施した。特に3年生は理科系の生徒を対象とした数学と、文科系の生徒対象の地歴の授業を並行して行った。

④理解の遅れている生徒への対応

毎年実施している学期終了後の補習や自習室での指導、マナトレ（学び直しトレーニング）を取り入れ、理解の遅れている生徒への対応を行った。また、中学・高校入学前の取り組みについては、入学後の学習がスムーズに進むよう、入学前講習の実施や宿題を準備した。

(2) 生活指導

①規程の尊重

昨年度制定された生徒指導規程の精神を理解して、面談、聞き取り、説得を重視しながら、生徒を正しく導くように心がけた。

②カウンセリング体制の継承と発展

従来からカウンセリングの専門家を招聘して、教職員対象の研修会を定期的に実施してきたが、昨年より2年間スクールカウンセラー派遣事業の指定を受けて週に一日専門のカウンセラーの配置を受けている。様々な生徒、保護者の相談を受けて、専門的な助言、指導を受け、生徒の就学が容易となるように導いた。

③イジメ等への対応

イジメ等の防止のため各学年で人権教育を行い、定期的な点検アンケートを実施し、クラスの状況の把握に努めた。

④登下校の安全、安心の確保

昨年度半ばより登下校時の保護者との連絡を目的とする携帯電話の所持を認めることとした。校内では学校の提供する教育を受けることを優先するために、朝礼時に預かり、下校時に返却することとした。同時にインターネットでの不必要なアクセスを防止するなど現代の若者として適切な携帯電話の使用法を学ばせるために、生徒対象の講習会を実施した。

また、iタグを利用した生徒の登下校情報システム(登下校時刻を保護者にメールで知らせる)も導入した。

(3) 進路指導

①キャリア教育の推進

併設校の相愛大学による学部・学科説明会や大学見学の実施や教育連携校である龍谷大学の見学を通して、関係大学への関心を高めた。

また、卒業生による職業講演会や職業別ガイダンスなどを実施し、将来の職業を意識した進路指導を行った。

②大学等の受験指導の向上

高校特進コースでは第7時限目授業を週4回に増やし、長期休暇中の補習や進学ゼミ、高1高2対象の勉強合宿を実施し、大学入試センター試験対策の充実を図った。高校3年の第7時限目の授業では、外部講師を招いて到達度の確認を行なうと共に、時間を延長して演習量を確保した。

高校進学コースでは指定校制度や推薦制度での受験が多く、早い時期に進路が決定する。合格をした生徒には大学から入学前の学習・課題の取り組みが求められるので、在学中にその指導を行った。

(4) 宗教教育

本年度は親鸞聖人の750回大遠忌が執り行なわれる年度であり、様々な行事が催された。5月21日に本校での親鸞聖人降誕会法要が行われ、5月20日～21日の本山山祖降誕会音楽法要に音楽科生徒が参加した。1月16日の講演で厳修された相愛学園親鸞聖人750回大遠忌法要においても中高生徒・保護者・教職員が参拝した。

(5) 入試広報

入試説明会・体験学習・中学校訪問・塾訪問を行い、広報活動の充実を図った。

①中学入試

中学入試においては、昨年度から実施しているプレテスト+受験前講習+フォロアアップ講座(入学前)の精度を高め、入学後の学習面でのサポートを充実させた。

②高校入試

多くの大学への指定校となっている事実を広報に活かすべく、有効な資料を作成した。特に相愛大学、龍谷大学、京都女子大学は希望者も多く、進学コースからの進学が多いことも広報活動の一つとした。また学力による奨学生、スポーツ奨学生制度の導入によって、志願者も増加し、学校が活性化しつつあることを踏まえて広報にも努めた。

(6) 音楽教育

本校の音楽教育は長い伝統を持ち、相愛大学並びに相愛音楽教室の協力も得て、定評がある。特に音楽科の生徒で今年度も全国的なコンクール等で上位に入賞した。

また、海外のコンクールにも出場し、結果を出している。音楽科では、本校独自の発表会、演奏会を行なっているが、その広報を強化して音楽科入試説明会に参加した受験生にも本校生徒の演奏に触れられる機会を設けた。

(7) 保護者との連携

育友会(保護者会)との連携で、各種法要や学校行事に参加されると共に、生徒の活動を支援して頂いている。昨年度から実施している保護者会主催による料理教室では、相愛大学発達栄養学科の学生によるお弁当講習会が行われ大変好評であった。また、新入生保護者対象の子育て講演会等を行い、保護者の生涯教育を推進すると共に併設校である相愛大学を身近に知って頂く一助となった。

(8) 学校評価

学校評価制度が本校で導入されて3年が経過した。生徒や保護者から採点されることに対する疑問や抵抗感当初よりは減少し、評価内容を真摯に受け止めて、謙虚な姿勢で業務改善を行なう姿勢が見られた。

(9) 高等学校卒業式

昭和20年に大阪大空襲のため、卒業式が行われなかった本校の卒業生の方に67年ぶりの卒業式を挙行し、卒業証書を授与した。本年度卒業の高校3年生とともに心に残る卒業式となった。卒業式前には、高校3年生と昭和20年卒の大先輩とのトークイベントを行い、当時の学生生活や戦争について学んだ。

(10) その他

① 社会が求める学校の現代的な姿
大阪府の高等学校に対する新規事業として、TOEFL獲得スコア上位校に対する補助金、キャリア教育実践校に対する補助金、障がいのある生徒支援を行なう学校への補助金、顕著な成果を挙げたり、優れた取り組みを実践したりする学校への補助金が予算化されている。今年度は大きな成果は出ていないが、新規事業を意識しながら、次年度取り組み必要がある。

② 東北関東太平洋地震の発生とその後
平成23年3月11日に発生した災害を受けて、大阪地域に同様の災害が発生した場合を想定して、備蓄食料を用意したが万全量ではないので費用と保管場所の問題が今後の課題である。

③ 生徒への働きかけ
過去10年来の生徒の現状を考えると、社会で求められる理想的な人材からは後退する傾向があると言わざるを得ない。今の生徒は、という責任の棚上げではなく、不足する能力や素養があることを認めて、在学中に様々な場面でそれを補い、発展させる場を提供する。具体的には次の項目である。

ア) 挨拶の励行

登校時の正門での挨拶から始まり、授業の開始・終了での挨拶等、日常の挨拶を推進した。

イ) 読書の勧め

図書室は教室から遠い場所にあるため、生徒にとって不便であるが、「図書室便り」の発行やブックトークなどの活動を行い、本に興味を持てるよう、成果を上げている。

ウ) 「見る」「聞く」「判断する」「相手に伝える」「能力の育成」
責任ある自己判断と、周囲の人への意志伝達は現在の若者の苦手とするところであると思われるが、全校集会やホームルームで何度も具体的に伝え、各活動で実践した。

● 音楽教室

■ 1. 音楽教室

相愛音楽教室は今年度、創立56年目を迎える。今日の日本の音楽界を担う幾多の音楽家を輩出してきた誇りを失うことなく、今後の継

続への責任を改めて胸に置く次第である。

さて昨年度、昨今の厳しい少子化のもと、音楽教室は経費の削減に腐心した。教室では今まで一冊になっていた「募集要項・教室案内」を2つに分け「教室案内」を講師、スタッフの協力を得てカラーコピーで作成し、印刷費の節約に努めた。

内容的にはビジュアルを重視し、見やすく、分かりやすく、従来のものより数段興味や関心をひくものになったと自負している。今後とも広報のアイテムとしても積極的に活用していきたい。

入試関係においては平成24年度の新入生として、相愛大学に5名、相愛高等学校に6名を音楽教室から送り出すことが出来た。また従来の入試試験(春および秋)以外の時期に入室を希望する声が多々たびたび寄せられていた「学齢前」のクラスに編入制度を新たに設け、3月、8月を除く随時受け入れを後期より実施して入室の門戸を広げた。

例年のコンサート関連事業として、サマーコンサート(7月)、在室生に向けての鑑賞演奏会(10月)、3月修了予定者による音楽教室演奏会(12月)、在室生によるスプリングコンサート(2月)、オーケストラC組D組による「発表演奏会」(3月)はいずれもつつがなく終了した。

鑑賞演奏会は打楽器の中谷満教授が学生を伴って多種多様な打楽器を紹介し、生徒たちの打楽器に対する興味を喚起し、打楽器についての認識を深めることに貢献した。3月の相愛オーケストラC組D組発表演奏会では満員の聴衆を前に練習の成果をいかんなく発揮し、大きな拍手を受けて幕を閉じた。演奏会には弦楽器以外の在室生、音楽教室講師が合唱として参加し、ヘンデル作曲の「メサイア」をC組オーケストラと共演した。音楽教室のすべての在室生が一堂に会して音楽の素晴らしさを共有したことは、彼らにとって音楽との絆を深める最良の機会であったと言えるであろう。

III. 財務の概要

■ 1. 財務の概要

平成23年度決算が、平成24年5月25日(金)の理事会・評議員会において承認された。
資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について報告する。これらの計算書は、「学校法人会計基準」に定められた計算書であるが同会計基準による様式は補助金交付の観点からの表示区分となっているため、一般的に知られている企業会計の計算書とは異なる点も多くある。

① 「資金収支計算書」は当該年度の教育研究等の諸活動に係るすべての収支内容、並びに支払資金(現金・預貯金)の収支の順末を明らかにする目的の計算書である。お金の動きをすべて網羅した計算書(いわゆる、キャッシュフロー)であるため、収入には前受金収入、奨学貸付金回収収入等が含まれ、支出では借入金返済支出、資産運用支出等が含まれる。
この計算書は平成23年度の前算(修正予算)額と決算額を対比する形で表している。
資金収支において、前年度よりの繰越した資金が15億2,072万7千円、また今年度の収支の結果により次年度への繰越資金が15億8,238万8千円と約6,100万円の増となっているが、これは教育充実特定預金等の特定預金を約4億5,800万円取崩した事によるものである。また、本町の大学等校舎建築に係る総経費約6億6,500万円の内、未払金(4月支払分)約4億5,800万円を含んでいる。

② 「消費収支計算書」は当該会計年度における消費収支の均衡状態と内容を明確にし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかをみる、いわば企業会計の損益計算書に当たるものである。
この計算書には「帰属収入」および「基本金組入額」という学校法人会計特有の科目がある。

「帰属収入」とは学生生徒等納付金や手数料、寄附金、補助金等の収入のことで、学校法人の活動による収入を意味し、借入金等収入や前受金収入のような負債となる収入は除かれる。「基本金組入額」とは、「学校法人が教育研究活動を行ううえで欠かせない必須の諸資産を、永続的に保持するため、その資産に相当する額を帰属収入の中から基本金として維持するよう組み入れたもの」と規定(学校法人会計基準第29条)されている。当該年度においては、基本金組入要件の建物等の新たな取得額より、おおいセミナーハウス取壊や本町5号館・プール棟取壊による除却額が上回り基本金へ組入せず取崩を行った。
もう一つの大きな変更点は、退職給与引当金が期末要支給額算定を50%から100%へと義務化されたことである。当学園は差額の50%の調整を10年間で調整し、退職給与引当特別繰入額として加味していく。

今年の当年度消費支出超過額は6億5,727万7千円となった。学園は収支均衡を大原則とし、言い尽くされてきたことではあるが、収支均衡のためにも、収入増加、経費削減の実施につづけることである。

③ 「貸借対照表」は年度末の財政状態を表し、当年度末と前年度末の額の対比で変動を確認し、資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額等)別に計上している。

資産の減少は、減価償却と資産の除却損、現預金等の減少によるものである。負債においては、借入金が長・短期合計で3億7,300万円である。

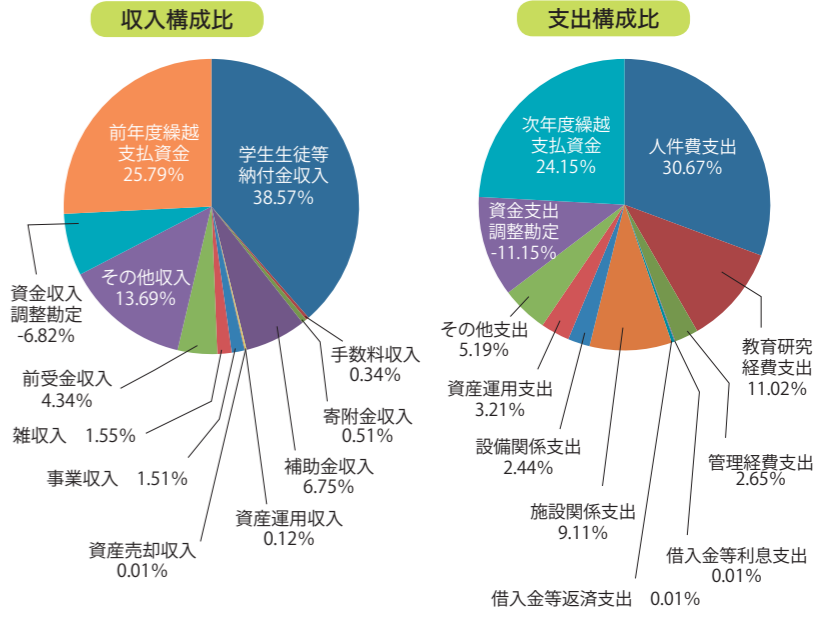
また、その他の固定負債において、消費収支でも述べたように今年度より退職給与引当の要支給額調整の額を含めている。しかし、今回は退職者の増加において人件費の減少による引当額が減少し、前年より微増となった。基本金は組入ではなく、本町の大学校舎等の建設において高等学校、中学校の旧校舎建物等除却及びおおいセミナーハウスの取壊等で取崩額が8億218万9千円となった。

結果、消費収支差額の部合計は翌年度繰越消費支出超過額89億8,883万2千円となった。これは拡充計画が始まって以来の傾向で、ひとえに資金不足の状況を表している。
学校法人は多額の消費収入超過額を目的とするものではない、といえ財務の安全性をはかり、収支均衡のためにも資金の積上げが不可欠な状況にある。

平成23年度決算

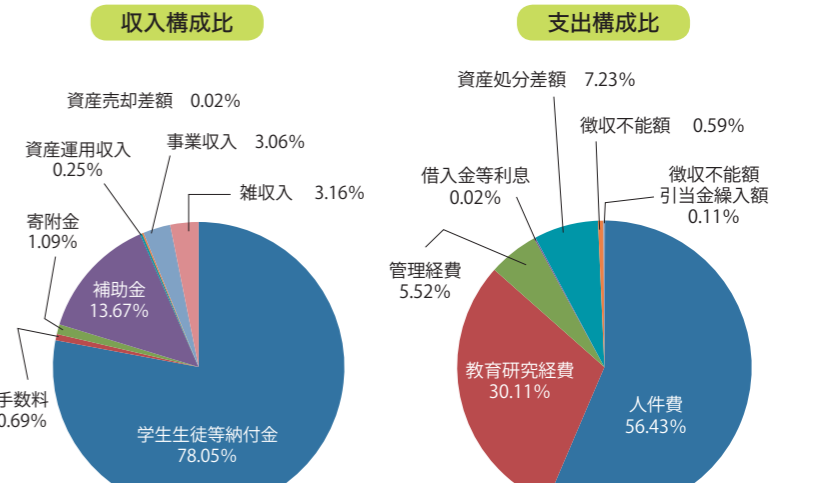
(1) 資金収支計算書 2011(平成23)年4月1日～2012(平成24)年3月31日まで (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金収入	2,305,885,000	2,274,068,800	31,816,200
手数料収入	20,070,000	20,214,940	△ 144,940
寄附金収入	29,492,000	29,851,980	△ 359,980
補助金収入	398,285,000	398,207,090	77,910
資産運用収入	7,264,000	7,248,962	15,038
資産売却収入	690,000	690,000	0
事業収入	90,784,000	89,092,694	1,691,306
雑収入	88,387,000	91,272,974	△ 2,885,974
前受金収入	286,945,000	255,622,500	31,322,500
その他収入	609,112,000	807,164,136	△ 198,052,136
資金収入調整勘定	△ 400,704,000	△ 402,166,860	1,462,860
前年度繰越支払資金	1,520,727,178	1,520,727,178	0
収入の部合計	4,956,937,178	5,091,994,394	△ 135,057,216
人件費支出	2,003,555,000	2,009,640,954	△ 6,085,954
教育研究経費支出	705,355,000	722,326,312	△ 16,971,312
管理経費支出	203,003,000	173,680,468	29,322,532
借入金等利息支出	600,000	600,000	0
借入金等返済支出	27,000,000	27,000,000	0
施設関係支出	653,017,000	597,046,346	55,970,654
設備関係支出	209,780,000	159,799,278	49,980,722
資産運用支出	7,365,000	210,201,694	△ 202,836,694
その他支出	332,667,000	339,836,873	△ 7,169,873
資金支出調整勘定	△ 749,146,000	△ 730,525,738	△ 18,620,262
次年度繰越支払資金	1,563,741,178	1,582,388,207	△ 18,647,029
支出の部合計	4,956,937,178	5,091,994,394	△ 135,057,216



(2) 消費収支計算書 2011(平成23)年4月1日～2012(平成24)年3月31日まで (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金	2,305,885,000	2,274,068,800	31,816,200
手数料	20,070,000	20,214,940	△ 144,940
寄附金	29,492,000	31,719,256	△ 2,227,256
補助金	398,285,000	398,207,090	77,910
資産運用収入	7,264,000	7,248,962	15,038
資産売却差額	690,000	690,000	0
事業収入	90,784,000	89,092,694	1,691,306
雑収入	88,387,000	92,198,174	△ 3,811,174
帰属収入合計	2,940,857,000	2,913,439,916	27,417,084
消費収入の部合計	2,940,857,000	2,913,439,916	27,417,084
人件費	2,063,828,000	2,014,977,373	48,850,627
教育研究経費	1,060,354,000	1,075,027,512	△ 14,673,512
管理経費	225,455,000	196,936,855	28,518,145
借入金等利息	600,000	600,000	0
資産処分差額	140,597,000	258,248,092	△ 117,651,092
徴収不能額	25,920,000	21,082,256	4,837,744
徴収不能引当繰入額	0	3,845,479	△ 3,845,479
消費支出の部合計	3,516,754,000	3,570,717,567	△ 53,963,567



当年度消費支出超過額	575,897,000	657,277,651	
前年度繰越消費支出超過額	9,133,744,097	9,133,744,097	
基本金取崩額	0	802,189,224	
翌年度繰越消費支出超過額	9,709,641,097	8,988,832,524	

(3) 貸借対照表 平成24年3月31日 (単位:円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	16,595,296,707	16,930,867,133	△ 335,570,426	固定負債	1,057,789,875	1,071,361,408	△ 13,571,533
有形固定資産	15,533,465,162	15,412,066,281	121,398,881	長期借入金	346,000,000	360,000,000	△ 14,000,000
土地	6,579,213,600	6,579,213,600	0	その他の固定負債	711,789,875	711,361,408	428,467
建物	6,410,805,111	6,485,302,091	△ 74,496,980	流動負債	1,069,275,156	721,454,908	347,820,248
その他の有形固定資産	2,543,446,451	2,347,550,590	195,895,861	短期借入金	27,000,000	40,000,000	△ 13,000,000
その他の固定資産	1,061,831,545	1,518,800,852	△ 456,969,307	その他の流動負債	1,042,275,156	681,454,908	360,820,248
流動資産	1,671,357,867	1,658,816,377	12,541,490	負債の部合計	2,127,065,031	1,792,816,316	334,248,715
現金預金	1,582,388,207	1,520,727,178	61,661,029	基本金の部			
その他の流動資産	88,969,660	138,089,199	△ 49,119,539	第1号基本金	24,549,422,067	25,351,611,291	△ 802,189,224
				第3号基本金	200,000,000	200,000,000	0
				第4号基本金	379,000,000	379,000,000	0
				基本金の部合計	25,128,422,067	25,930,611,291	△ 802,189,224
				消費収支差額の部			
				翌年度繰越消費支出超過額	9,988,832,524	9,133,744,097	△ 144,911,573
				消費収支差額の部合計	△ 9,988,832,524	△ 9,133,744,097	144,911,573
資産の部合計	18,266,654,574	18,589,683,510	△ 323,028,936	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	18,266,654,574	18,589,683,510	△ 323,028,936



2013年度 入試日程

相愛大学入試日程					
学部	種別	出願受付期間 (音楽・人文・人間発達共、消印有効・最終日は現金受付可)	試験日	合否発表	
音楽	一般A入試	音楽学科 音楽マネジメント学科	2月 1日(金)・2日(土) 2月 2日(土)	2月 7日(木)	
	音楽専攻科入試		2月 1日(金)		
	一般編入学後期試験		2月 1日(金)		
	社会人特別入試	音楽マネジメント学科			
	一般B入試		2月 8日(金)～2月28日(木) 3月 8日(金)～3月20日(水) [3月21日(木)]と[3月22日(金)の正午まで]窓口にて受付	3月 9日(土)	3月12日(火)
	一般C入試		3月24日(日)	3月25日(月)	
人文・人間発達	一般A入試	(本学会場) (岡山会場)	1月11日(金)～1月25日(金)	2月 2日(土)	2月 7日(木)
	社会人特別入試				
	一般編入学後期試験				
	センター試験利用A入試		1月24日(木)～2月 7日(木)	本学独自の試験は実施しない	2月14日(木)
	一般B入試				
	ファミリー後期入試(発達)		2月 5日(火)～2月18日(月)	2月26日(火)	2月28日(木)
	センター試験利用B入試			本学独自の試験は実施しない	
	一般C入試			3月19日(火)	
	センター試験利用C入試 寺院特別推薦C入試 寺院特別推薦編入(後期)入試(人文)	3月 1日(金)～3月13日(水)	本学独自の試験は実施しない 3月19日(火)	3月20日(水)	

●お問い合わせ先 相愛大学 入試課
電話 06-6612-5905 F A X 06-6612-6090

相愛高等学校入試日程			
	1次入試	1.5次入試	
普通科	受付	窓口受付	予定あり
	出願期間	1月21日(月)～2月2日(土)	
	試験日	2月 9日(土)	
音楽科	受付	窓口受付	
	出願期間	1月21日(月)～2月2日(土)	
	試験日	2月9日(土)、2月10日(日)	

相愛中学校入試日程			
	A日程	B日程	C日程
受付	窓口受付	窓口受付	窓口受付
出願期間	12月14日(金)～12月25日(火) 1月7日(月)～1月18日(金)	12月14日(金)～12月25日(火) 1月7日(月)～1月19日(土)	12月14日(金)～12月25日(火) 1月7日(月)～1月22日(火)
試験日	1月19日(土)	1月20日(日)	1月22日(火)

●お問い合わせ先 高中入試広報部
電話 06-6262-0621 F A X 06-6262-0534

◇相愛学園イベントガイド (2013年1月～2013年3月)

Ⓜ=本町学舎
Ⓝ=南港学舎

- 成人の集い
1月12日(土)
Ⓝホール
本学在学対象
- 親鸞聖人御正忌法要/学園関係物故者追悼法要
1月16日(水)
Ⓜ講堂
本学関係者対象
- 古楽器・アンサンブル演奏会
1月22日(火)
Ⓝホール
入場無料
- 北御堂相愛コンサート
1月24日(木)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)津村ホール
入場無料
- 相愛高等学校乙女コンサート
高校1年生の部
2月2日(土)13:30開演
Ⓜ講堂
入場無料
出演:本校高校音楽科1年生
- 相愛大学音楽専攻科修了演奏会
2月16日(土)昼の部13:30開演
夜の部18:00開演
ザ・フェニックスホール
入場無料
出演:本学音楽専攻科修了生

- 相愛高等学校卒業奉告本山参拝
2月18日(月)
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 帰敬式
2月18日(月)
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 北御堂相愛コンサート
2月21日(木)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)津村ホール
入場無料
- 相愛高等学校卒業式
2月21日(木)
Ⓜ講堂
- 学内オペラ公演「コシ・ファン・トゥッテ」
2月28日(木)16:00開演
Ⓝホール
入場無料
指揮:船曳圭一郎 演出:岩田達宗
- 相愛ウィンドオーケストラ
第6回ポップスコンサート
3月3日(日)14:00開演
Ⓝホール
入場無料
出演:相愛ウィンドオーケストラ
- 相愛オーケストラ第59回定期演奏会
3月7日(木)18:30開演
いずみホール
出演:相愛オーケストラ
- 相愛高等学校音楽科卒業演奏会
3月9日(土)13:30開演
Ⓜ講堂
出演:本校音楽科卒業生選抜者

- 相愛中学校卒業奉告参拝
3月15日(金)
本願寺津村別院(北御堂)
- 相愛オーケストラ第14回C組D組発表演奏会
3月16日(土)18:45開演
Ⓜ講堂
入場無料
- 相愛中学校卒業式
3月16日(土)
Ⓜ講堂
- 相愛大学卒業式
3月18日(月)
Ⓝホール
- 相愛大学卒業演奏会
3月20日(水)13:30開演
Ⓝホール
入場無料
出演:本学音楽学部卒業生
- 相愛大学卒業演奏会
3月25日(月)18:00開演
いずみホール
入場無料
出演:本学音楽学部卒業生
- 北御堂相愛コンサート
3月28日(木)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)津村ホール
入場無料
- 相愛大学オープンキャンパス
3月30日(土)

